

作成: the Sustainable Development Solutions Network (SDSN) – Australia/Pacific。The Australasian Campuses Towards Sustainability (ACTS) および the global SDSN Secretariat との協働。

著者: Tahl Kestin (SDSN Australia/Pacific & Monash Sustainable Development Institute, Monash University), Marjan van den Belt (Victoria University of Wellington), Leanne Denby (ACTS & Macquarie University), Katie Ross (Institute for Sustainable Futures, University of Technology Sydney), Professor John Thwaites (SDSN Australia/ Pacific & Monash Sustainable Development Institute, Monash University), Martine Hawkes (Monash Sustainable Development Institute, Monash University).

貢献、ケーススタディやフィードバックをいただいた次の方々に、感謝する: Elizabeth Bacchetti (Monash University), Lauren Barredo (SDSN), Adele Broadbent (Council for International Development, NZ), María Cortés Puch (SDSN), Peter Devereux (Curtin University), Jen Dollin (Western Sydney University), Jane Fulton, Professor Dave Griggs (Monash University), Nina Hall (University of Queensland), Eleanor Jackson (Oxfam-Monash Partnership, Monash University), Caitlin Leahy (University of Technology Sydney), Professor Manfred Lenzen (University of Sydney), Siamak Sam Loni (Monash University), Professor Peter Newman (Curtin University), Professor Thomas Neitzert (Auckland University of Technology), Kerryn O’Conor (James Cook University), Susan Pepper (Monash University), Alberto Posso (RMIT University), Professor Jeffrey Sayer (James Cook University), Lesley Stone (University of Auckland), Ranjit Voola (University of Sydney), Andrew Wilks (Victoria University of Wellington), Helen Whitbread (University of Western Australia).

プロジェクトコーディネーター: Tahl Kestin (SDSN Australia/Pacific & Monash Sustainable Development Institute, Monash University).

出典の記載例: SDSN Australia/Pacific (2017): Getting started with the SDGs in universities: A guide for universities, higher education institutions, and the academic sector. Australia, New Zealand and Pacific Edition. Sustainable Development Solutions Network – Australia/Pacific, Melbourne. [translated to Japanese by Okayama University and SDSN Japan]

SDSNについて

持続可能な発展ソリューションネットワーク (SDSN) は、2012年に潘基文国連事務総長から委任された、学界、市民社会、および民間部門からの科学技術的専門知識を動員して、地方、国家、世界的規模での持続可能な開発のための実用的な問題解決を支援する組織です。SDSNは、ソリューション中心の知識ネットワークの国内および地域ネットワークを運営しています。SDSNは、持続可能な開発のためのオンライン大学であるSDGs Academyを構築しています。 www.unsdsn.org

SDSN Australia/Pacificについて

持続可能な発展ソリューションネットワーク (SDSN) - オーストラリア/パシフィックは、オーストラリア、ニュージーランド、太平洋地域のSDSNメンバーのネットワークであり、大学と広域コミュニティがSDGsにフォーカスしていくように動かしていくために活動しています。SDSNオーストラリア/パシフィックは、大学のコミットメントを開始し、SDGに導いた。ネットワークは、オーストラリアのメルボルンにあるMonash Universityによってホストされています。 ap-unsdsn.org

ACTSについて

持続可能な発展のためのオーストラリアアジアキャンパス (ACTS) は、オーストラリアとニュージーランドの高等教育セクターによる会員制協会です。ACTSは、より持続可能なセクターになるために、持続可能性の指導者、実務者、教育者の育成と結びつきを支援します。 www.acts.asn.au

このガイドを作成するにあたってサポートをいただいた、下記の団体に感謝します:



日本語版翻訳: 狩野光伸 (岡山大学・日本学会議)

日本語版監修: 蟹江憲史 (慶応大学・SDSN Japan), SDSN Japan

目次

概要	2
このガイドについて	4
1. なぜSDGsが大学に関係するのか	5
1.1 SDGsとは何か?	5
1.2 大学がSDGsに取り組む裏付け	7
2. 大学はSDGsにどう貢献できるか	10
2.1 学ぶことと教えること	11
2.2 研究	16
2.3 大学の組織ガバナンス、文化、運営	23
2.4 外部へのリーダーシップ	28
3. SDGsに取り組む大学	31
3.1 Step 1: 既存の取り組みをマップする	32
3.2 Step 2: SDGsに取り組む能力と当事者意識の育成	33
3.3 Step 3: 優先順、機会、ギャップを見つける	33
3.4 Step 4: 統合、実施、組み込み	34
3.5 Step 5: モニタリング、評価、コミュニケーション	34
4. SDGs統合のためのツールとガイド	35
4.1 SDGsへの大学の貢献をマッピングする	35
4.2 ステークホルダーを巻き込むワークショップの運営	36
4.3 大学の関与に関する業務企画書を構築する	38
4.4 SDGsへの大学の貢献	38
4.5 相互関連のマネジメント	40
4.6 SDGs貢献のレポート	40
出典	43
Annex A: SDGsに含まれる課題の例	45
Annex B: ケーススタディ	47
B1 「TAKE ONE STEP」を通じた学生の巻き込み (Monash University)	47
B2 SDGsのための持続可能な発展の博士号 (Curtin University)	47
B3 開発実践プログラム (James Cook University)	47
B4 SDGsについての学生リーダーシップフォーラム (Monash University)	48
B5 SDG 1の教育 (The University of Sydney)	48
B6 SDGsによるカリキュラムのマッピング (Victoria University of Wellington)	48
B7 SDG6を実現するためのディスカッションペーパー (The University of Queensland)	49
B8 UTSディベロップメントネットワーク (The University of Technology, Sydney)	49
B9 SDGsアイデアフォーラム (Victoria University of Wellington)	49
B10 SDGs研究ウェブサイト (The University of Western Australia)	50
B11 「安全な家族」研究プロジェクト (Monash University)	50
B12 研究をSDGsでマッピングする (Institute for Sustainable Futures, University of Technology, Sydney)	50
B13 西オーストラリアSDGsネットワーク (Curtin University Sustainability Policy Institute)	51
B14 SDGsのローカリゼーションをオーストラリアでリードする (SDSN Australia/Pacific)	51
B15 SDGsへの貢献を大学賞で表彰する (Western Sydney University)	51
B16 社会善サミット (The University of Sydney)	52
B17 大学SDGsリーダーシップワークショップ (James Cook University)	52

概要

国連の、「世界を変える:持続可能な発展のための2030アジェンダ」は、最近の歴史において最も野心的かつ重要な世界的合意の1つです。17の持続可能な発展目標(SDGs)を核とするこのアジェンダは、世界で最も緊急に取り組むべき課題の解決を導くものです。2030年までに貧困を解消し、経済的繁栄、社会的包摂、環境の持続可能性と平和、そして優れたガバナンスをすべての国とすべての人々にもたらそうという内容です。

ほとんどの国の政府、企業、組織において、SDGsへの強い関心と対応が既に存在します。SDGsは、今後15年間で、これらのステークホルダーの戦略と行動、そして開発金融の流れに大きな影響力を持つこととなります。SDGsはまた、大学との関連性が高く、高等教育および学術セクターはより広範に関連しています。

SDGsは、複雑な社会的、経済的、環境的課題を幅広くカバーしており、それらに対処するには、社会と経済がどのように機能するか、私たちがどう地球と相互作用するかを、変化させていく必要があります。教育、研究、イノベーション、リーダーシップは、社会がこれらの課題に取り組むのを支援する上で不可欠です。大学は、知識の創造と普及に関する社会内での特別な地位と広範な任務を持っており、SDGs達成のために重要な役割を果たします。おそらく、このセクターがなければSDGsのどれも達成されないでしょう。

SDGsに関わることで、大学にも、SDGs関連教育の需要を獲得でき、新たなパートナーシップを構築でき、新たな資金調達の流れにアクセスでき、さらにはグローバルな認識のある責任ある大学として特徴づけられることにより、益がもたらされるのです。

教育と研究はいくつかのSDGsで明白に重要性を認められており、大学はこれらの課題に直接的な役割を担っています。しかし、SDGsへの大学の貢献は、SDGsのすべての実装とSDGsフレームワーク自体の実装をサポートできるので、はるかに幅広いのです。これらの主要な貢献分野のいくつかは次のとおりです。

- **学ぶことと教えること:** SDGs(広く「持続可能な開発のための教育」)を理解し対処するための知識、スキル、動機づけを学生に提供する。SDGsへのソリューションを実装するための徹底的な学術的または職業的専門知識を提供する。すべてにアクセス可能で手ごろで包括的な教育を提供する。開発途上国の学生や専門家のための能力開発をもたらす。若者に、力を与え、動機づける。
- **研究:** 伝統的な分野ごとのアプローチと、より新しい分野間連携や科学セクター外との連携かつ持続可能な科学的アプローチの両方を通じ、国際社会によるSDGsの実施を支え、支援するために必要な知識、証拠ベース、解決策、技術、開発途上国が研究を実施し利用する能力開発をもたらす。SDGsソリューションを実装する革新的企業と協力して支援する。研究の多様性を向上させる。持続可能な開発研究のための学生教育などがある。
- **大学の組織ガバナンス、文化、運営:** 雇用、財政、キャンパスサービス、サポートサービス、施設、調達、人事、学生に関するガバナンス体制や運営方針、決定を通じて、SDGsの原則を実装する。
- **外部に向けたリーダーシップ:** SDGsの取り組みに対する市民参加と参加を強化する。分野横断的な対話と行動を開始し促進する。国レベルの実施における高等教育部門代表の確保。SDGsベースのポリシーを設計するのに役立つ。SDGsへのセクターコミットメントを実証する。

これらの分野における現在の活動を通じて、大学はすでにSDGsの達成に重要な貢献をしています。しかし、SDGsが世界規模で成功するためには、大学は、持続可能な発展を支持し、SDGsの実施において主導的役割を果たす必要があります。

このためには、大学全体でのアプローチが不可欠です。大学はSDGsへの関与を開始し深めるために以下のステップを活用することができます：

1. 既に行っていることをマッピングする
2. SDGsについて内部の能力強化と当事者意識の構築
3. 優先順位、機会およびギャップの特定
4. 大学の戦略、政策、計画へのSDGsの統合、実装、組み込み
5. SDGsに対する行動のモニタリング、評価、伝達

このガイドでは、さまざまな状況やニーズに合わせてカスタマイズできる一般的なツールとガイダンスを提供しています。マッピングの方法、大学のステークホルダーと上層部によるリーダーシップ、ビジネスケース(事業企画書)の構築、相互リンクの管理、および報告に関するガイドです。

SDGsを達成する課題の大きさ、大学が支援し提供する重要な役割を考えると、大学セクターがSDGsに対する行動を加速することが急務です。その鍵は大学が始めることです。このガイドは、そのためのフレームワークを提供します。

このガイドについて

このガイドの目的は?

この「大学におけるSDGsを開始すること」は、大学や高等教育機関や学術セクターが国連持続可能な開発目標 (SDGs) に貢献し、関与することのメリットをもたらす重要な役割を概説しています。貢献を深め始める方法に関する実践的なガイダンスを提供します。

大学がSDGsの実装において重要な役割を担っていることに対する認識が高まっている一方で、多くの大学が積極的に彼らの役割を果たそうとしていますが、実際にはこれが何を意味しているかについては、ほとんど指針がありません。他の分野[1]、[2]、[3]でSDGsを実施するための既存のガイドは、大学のユニークなニーズと機会には直接対応していません。このガイドは、既存のリソースと既にSDGsに取り組み始めている大学の経験を基に、このギャップを埋めるものです。

大学がSDGsに参加するための「正しい」方法はありません。大学がどのように行動するかは、規模、文脈、研究や教育の強さ、資金調達の可能性、価値観、優先度、そして彼らが奉仕する地域社会のニーズによって決まります。このガイドでは、アプローチを調整するための一般的な概念、手順、および例について概説します。

このガイドがカバーするところは?

第1章では、SDGsが何であるか、大学がSDGsの達成に不可欠な理由、大学がSDGsに関与することで得られる大きな利点について要約します。

第2章では、大学が教育、研究、運営、外部リーダーシップの中核的機能を通じてSDGsの実施にどのように貢献できるかを概観します。

第3章では、大学がSDGsに携わり、特にSDGsの実施を支援するための機関全体の枠組みを開発するのに手助けするためのステップバイステップのガイドを提供しています。

第4節では、既存の活動のマッピング方法、ステークホルダーの関与方法、SDGsへの寄稿方法の報告など、大学がSDGsに取り組むのを支援するための実践的なガイダンスとツールを提供します。

このガイドは誰のためのもの?

このガイドは主に、大学内のSDGsへの調整されたアプローチを実施しようとする人々またはグループを対象としています。そうした人々やグループは、持続可能性のための研究所、持続可能性の管理者、持続可能性のための委員会、または企業の社会的責任コーディネーターのような既に存在する持続可能な発展の「コンタクトポイント」であるかもしれません。

ガイドには、大学の指導者がSDGsの機会を理解し、行動を動かす方法を理解するのに役立つ情報も含まれています。また、SDGsの理解に関心のある大学のスタッフや学生、自分の分野でSDGsをサポートする活動、大学でのSDGsの採用を提唱する学生にも役立ちます。

1. なぜSDGsが大学に関係するのか

1.1 SDGsとは何か?

2015年9月、国連において世界首脳は、最近の歴史のなかで最も野心的で重要な世界的合意の一つである「変革する世界:2030年持続可能な発展アジェンダ」を満場一致で採択しました。2016年1月1日に発効したアジェンダは、2030年までに世界をより良い未来に向かわせる道筋なることを目指しています。

議題の中心には17のSDGs(時にはグローバル目標と呼ばれる)と169の目標(Box 1)があります。SDGsは、貧困と飢餓の撲滅を含む世界の最も緊急な課題に取り組むためにすべての国を指導するための一連の優先事項と志向です。

Box 1: The 17 SDGs*

- 目標 1. あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
- 目標 2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
- 目標 3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
- 目標 4. すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する
- 目標 5. ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う
- 目標 6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
- 目標 7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
- 目標 8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する
- 目標 9. 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
- 目標 10. 各国内及び各国間の不平等を是正する
- 目標 11. 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する
- 目標 12. 持続可能な生産消費形態を確保する
- 目標 13. 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
- 目標 14. 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
- 目標 15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
- 目標 16. 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
- 目標 17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する



*各目標の目標の完全なリストは、次で見ることができます：<http://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/>。また、Annex Aでは、各SDGsが対象とする社会的、環境的、経済的課題の詳細を提供しています。

緊急に取り組む必要のある課題とは:この惑星が劣化から保護され、気候変動に対処できること;すべての人々が豊かで健康的で充実した生活を楽しむことができるようにすること;恐れや暴力から解放された、平和的で公正で包括的な社会を育むこと;です。

SDGsはミレニアム開発目標(MDGs)の活動を継続するものです。MDGsは、2000年から2015年にかけて世界の最貧国の基本的ニーズに対応するためのグローバルな行動を推進しました。しかし、SDGsはMDGsとはいくつかの重要な点でかなり異なり、結果として、より影響力を持ちます。

SDGsは、MDGsよりもはるかに広い範囲の課題をカバーしており、その大部分は、すべての国々、または立場の弱いグループにも適用可能です。SDGsは、持続可能な開発の社会的、経済的および環境的側面と目標間の相互関係を強調しています。したがって、相互に関連しながら(別々にまたは逐次ではなく)目標を達成する必要があります[5]。これらには、SDGsの実施に必要な手段(例えば、パートナーシップ、資金調達、有効化ポリシー)を動員するための目標が含まれています。SDGsの課題に取り組むことが誰の責任でもあって、ビジネス、市民社会、および第三者と学術界にSDGsの達成に協力する求めが、SDGsには明示的に含まれています。

SDGsは法的拘束力を持ちません。しかし、幅広く包括的な世界的対話と地域へのアピールの結果としてSDGsが集めた関心の強さは、SDGsが政府、企業、組織の戦略と行動に大きな影響力を持つことを意味します。また、今後15年間の開発金融フローにも影響を与えます。

ほとんどの国やセクターの採用以来のSDGsへの強い関心と対応、そして新たなイニシアチブ、パートナーシップ、ネットワークが発揮されたことは、SDGsがすでに影響力を持っているという明確な証拠を示します。UNⁱと各国政府ⁱⁱの中にはすでに強い関心があり、ビジネスⁱⁱⁱ、地方自治体^{iv}、若手^v、市民社会、慈善団体^{vi}、開発銀行など幅広い分野でSDGsへの関心が高まり、SDGsへの関与と行動がますます高まっています。

また大学が関与し始めるにあたって、持続可能な発展ソリューションネットワーク(SDSN)、フューチャーアース、国連教育科学文化機関(UNESCO)、責任ある管理の原則(PMRE)などの組織の努力は大きいものでしたし、あるいは、各国ごとの団体である、持続可能な開発のためのキャンパス(ACTS)、環境大学協会(EAUC)、高等教育における持続可能な発展協会(AASHE)など、の力も必要でした。

しかし、SDGsを達成する課題の大きさと大学がSDGsを提供する重要な役割を考えると、大学セクターが行動を加速することが急務です。このガイドでは、SDGsの導入を開始するための情報とツールを大学に提供しています。

ⁱ例えば、UN SDGsのホームページ (www.un.org/sustainabledevelopment)。

ⁱⁱ例えば、the Voluntary National Reviews to the High Level Political Forum on Sustainable Development (sustainabledevelopment.un.org/vnrs) や the 2016 G20 Action Plan on the 2030 Agenda for Sustainable Development (g20chn.org/English/Documents/Current/201609/P020160908661601548463.pdf)。

ⁱⁱⁱ例えば、the UN Global Compact (www.unglobalcompact.org/SDGs), the Business and Sustainable Development Commission for business leaders (report.businesscommission.org), あるいは the CEO Statement of Support for the Sustainable Development Goals (www.unglobalcompact.org/au/2016/09/07/gcna-launches-ceo-statement-of-support-for-the-SDGs)。

^{iv} 例えば、the USA Sustainable Cities Initiative (unsdsn.org/what-we-do/solution-initiatives/usa-sustainable-cities-initiative-usa-sci)。

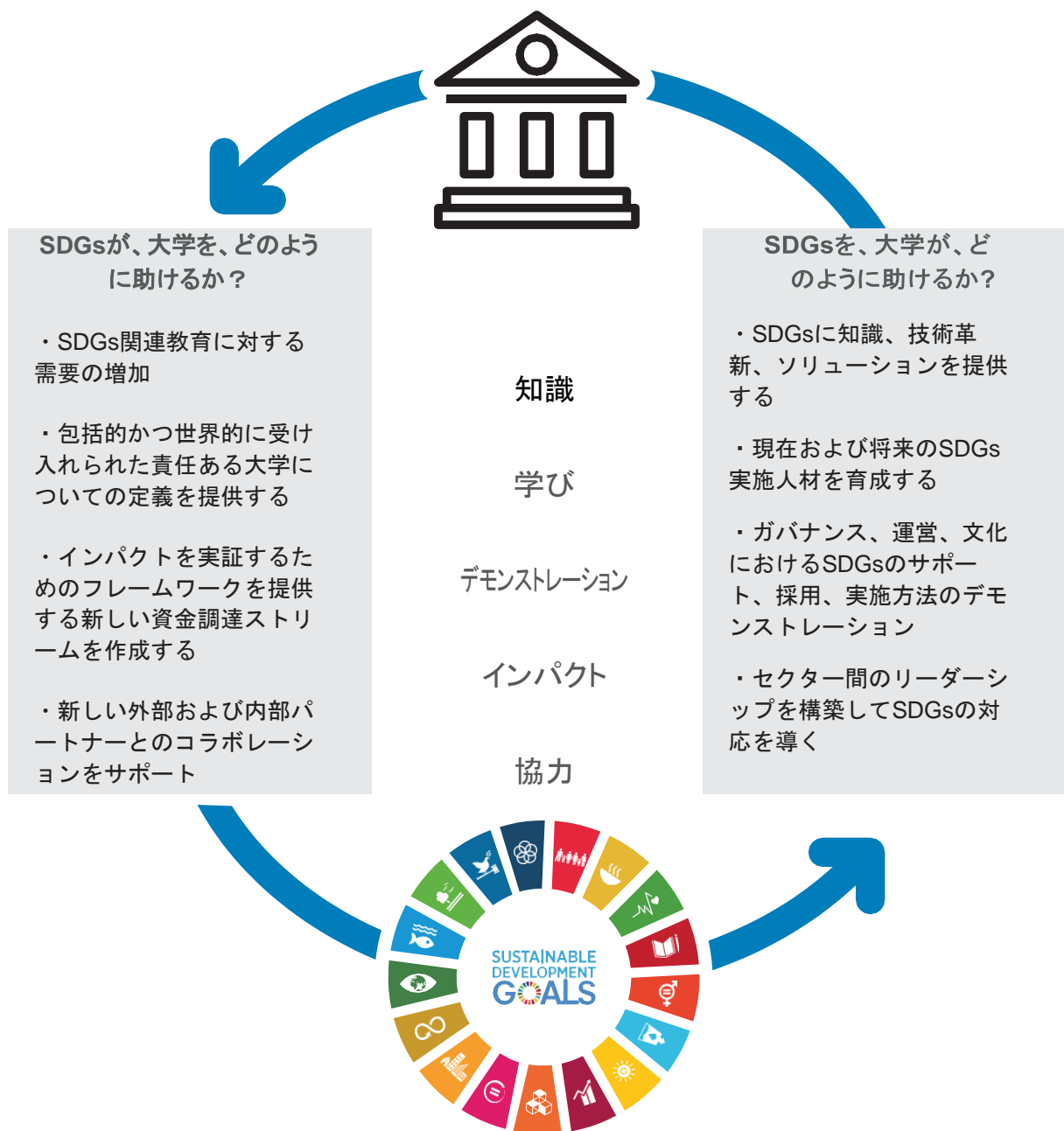
^v 例えば、SDSN Youth 2017, Youth Solutions Report, (www.youthsolutions.report)。

^{vi} 例えば、SDGs funders: the SDGs Philanthropy Platform (SDGsfunders.org/home/lang/en)。

1.2 SDGsに大学が取り組む裏付け

大学は社会内で独自の地位を占めています。大学は、知識の創造と普及をめぐる幅広い任務をもって、世界的、国家的、地域的なイノベーション、経済発展、社会的幸福の強力な推進要因となってきました[6,7,8]。このように、大学はSDGsの達成に重要な役割を果たしており、また、大学との連携から大きな利益を得ることができます(図1参照)。

図1: SDGsへの大学のかかわり方



なぜSDGsは大学を必要とするか

高等教育および科学研究分野は、いくつかのSDGsで明示的に認識されています。しかし、すべてのSDGsを達成するためには、大学の貢献がより広範に必要とされています。SDGsアジェンダは、幅広い社会的、経済的、環境的課題をカバーしており、これらのすべてを克服するためには、ユニークな機能と専門知識が不可欠です。おそらくSDGsはこのセクターなしで達成されないでしょう。大学が鍵となる役割は:

SDGsの実施を支える知識とソリューションを提供する

SDGsの課題に取り組むには、新しい知識、新しいことのやり方、競合するオプション間の難しい選択、場合によっては深遠な変革が必要です。大学は、研究、発見、知識創造、およびその実装を通じて、技術的および社会的進歩を促進します。才能と創造力を惹きつけ、育成し、地域や国家のイノベーションシステムの中心的な役割を担っています。これらの任務は、国際社会がSDGs間の課題、機会、相互作用を理解するのを助けるために重要です。解決策の開発、実装、政策オプションと転換経路の開発と評価、進行状況のモニターです。

現在および将来にSDGsを実行する人材の育成

大学は専門的で個人的なスキルと能力を人々に提供します。大学は、情熱的で創造的であり、より良い世界のための欲求を持っている、若くて興味のある人々という大きな集団に出会うことができます。また、留学生や学生同士、国際キャンパス、能力開発の活動を通じて、グローバル展開にますます影響を与えられます。SDGsを達成するには、誰もが貢献する必要があります。したがって、大学は、現在および将来の指導者、意思決定者、教師、イノベーター、起業家、市民にSDGs達成に貢献する知識、スキル、動機付けを確実に提供する必要があります。

組織ガバナンス、運営、文化を通じてSDGsの原則を具現化する

大学は複雑で多様な機関です。スタッフ、学生、キャンパス、地域、サプライチェーンを通じて、社会的、経済的、環境的に大きな影響を与えます。自国のガバナンス、運営、文化の中でSDGsの原則を実施することにより、大学はこれらの広範な分野でSDGsの達成に直接貢献します。

実装における分野横断的リーダーシップの提供

大学は、社会の中において中立で信頼できるステークホルダーの地位を保持しています。そのため、大学は、分野横断的な対話やパートナーシップを通じて、地域、国家、国際的なSDGsへの対応を導く能力と責任があります。また、SDGsに関する公的および他のセクターの教育、SDGsの重要性の提唱において重要な役割を果たすことができます。

なぜ大学がSDGsを必要とするか

SDGsは、政府、企業、市民社会、資金提供者、他の大学、コミュニティの間で強力な資源投入と実装を持つグローバルな枠組みです。大学は、SDGsと連携することで、この幅広い支持からさまざまな利益を得ることができます。主な利益は次のようなものがあるでしょう：

大学のインパクトを示す

SDGsを用いることで、政府、資金提供者、地域社会を含む外部ステークホルダーとのコミュニケーションとデモンストレーションを行うための新しい統合された方法が提供されます。これにより大学がどのように国際的および地域的な幸福に貢献し、影響と関連性を結果としてもたらすかを示せます。

SDGs関連教育に対する需要の獲得

SDGsは、社会と環境に有意義な貢献をしたい地球市民に対して、若いにも若きにもメッセージを発しています。さらに、政府や企業がSDGsを戦略的な課題として取り込むことが増えるにつれて、SDGsの課題を理解し実行することができる卒業生の需要が高まることになります。SDGs関連の教育を早期に採用することは、これらの変化する状況に対応している教育機関としての証拠に、将来なるでしょう。

新しい外部および内部のパートナーシップを構築する

SDGsアジェンダの強みの1つは、異なるセクターや組織が共通の関心事で連携して協力するための共通の枠組みを提供することです。これにより、大学は、研究、教育の両面において、政府、産業界、地域社会と新たな協力関係を結ぶ機会を得ることができます。同様に、このフレームワークは、学際的なパートナーシップ、コラボレーション、革新を推進するのに役立ち、大学のさまざまな分野で共通の関心を特定するのに役立ちます。

新しい資金調達の流れにアクセスする

政府機関、国際銀行、慈善団体を含む資金提供者は、SDGs達成のための資金調達の呼びかけを、ますます多く募集しています。

包括的かつ世界的に受け入れられた、グローバルな認識を持った責任ある大学の定義を採用できること

大学は、21世紀になってその役割を再考しており、社会のニーズにもっと責任を持ち、かつ、地球規模の課題解決のために変化する主体となることを目指しています。普遍的に合意された枠組みとして、SDGsは、これが大学にどのように見えるかを体系化する構造を提供します。さらに、大学がSDGsの成功を確保するうえで重要な役割を果たすことから、大学は社会的使命とコア機能の一環としてSDGsの支援を実施する道義的な責務があります。

政府、企業、市民社会が成功への道筋を描くのを助けるために、私たちは、大学を、自分の大学を、あなたの大学を、そして世界の千以上の大学のグローバルネットワークを積極的な「ソリューションネットワーク」として利用でき、それを通じて持続可能な発展技術の急速な発展と迅速な融合のためのインキュベーターとなることを目指しています。世界中の大学は、社会がこれらの目標を達成するための技術的解決策を見つける手助けをしてくれるはずです。

Jeffrey D. Sachs,
Director, Sustainable Development Solutions Network

[Sachs, JD 2015, 'Achieving the sustainable development goals', *Journal of International Business Ethics*, vol. 8, no. 2, pp. 53–62 (p.61).]

2. 大学はどのようにSDGsに貢献できるか

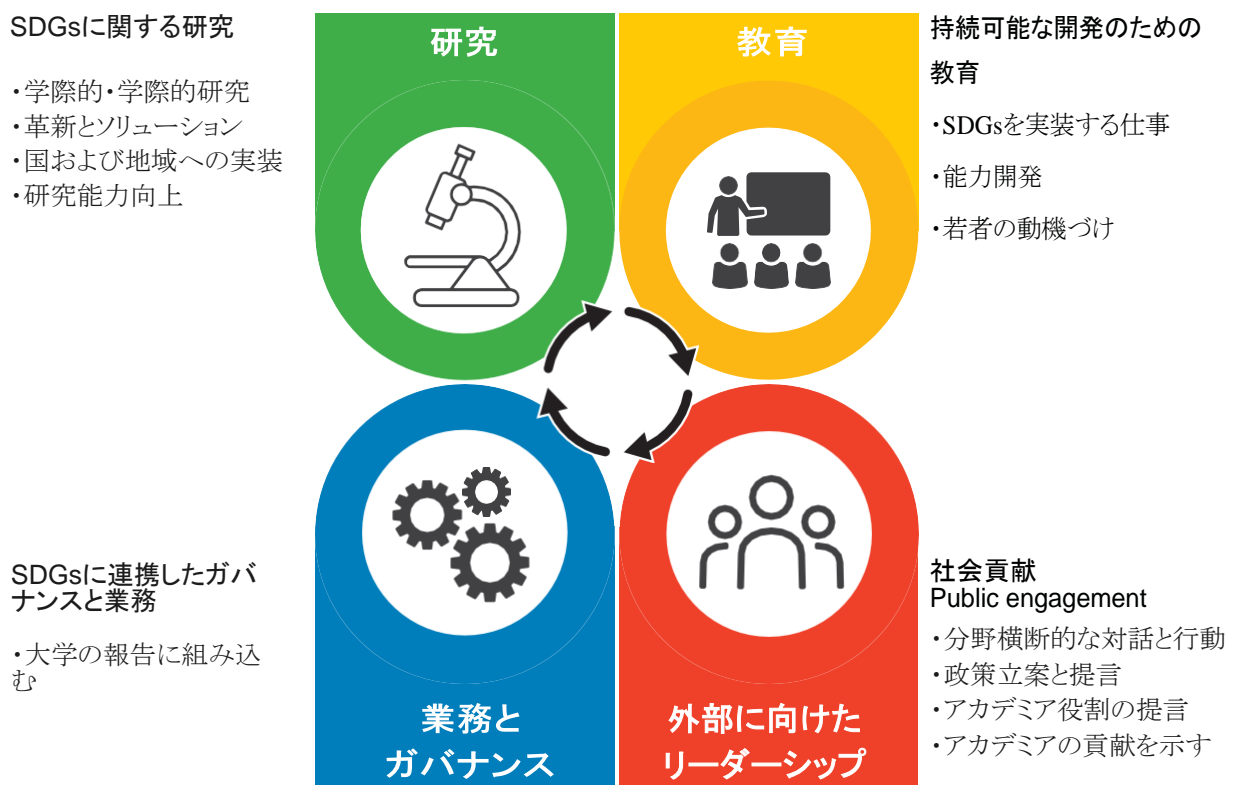
第1節で説明したように、大学はSDGsの成果に貢献する上で重要な役割を担っています。このセクションでは、大学がSDGsにどのように貢献できるかを詳しく見て、この議論を展開します。

便宜上、このセクションは、学習と教育、研究、組織ガバナンスと文化および運営、外部リーダーシップの4つのサブセクションに分かれており、各セクションはそれぞれ大学活動の中核機能の1つをカバーします。各サブセクションでは、これらの分野がSDGsにどのように関連し、どの大学が貢献できるかを説明します。このサブセクションには、アイデア、リソース、さらなるアクションの例も含まれています。

学習と教育、研究、組織のガバナンスと運営、外部リーダーシップはしばしば別々にアプローチされますが、現実には密接に関連しています。SDGsは、これらの分野間の連携を創造し、強化し、伝達する大きな機会を提供するため、SDGsへの貢献では、大学全体でのアプローチが最もよいと考えられます(第3節参照)。

図2は、このセクションの構造を要約し、大学がSDGsに行うことができる重要な貢献の概要を示します。

Figure 2: SDGsへの大学の貢献の全体像.



2.1 学習と教育

教育はSDGsの基盤の一つです。質の高い教育は、それ自体では、個人、地域社会、国々にとって持続可能な発展の大きなメリットをもたらします[9]。教育は、SDGsを実装するためのグローバルな能力をサポートし、加速するための重要な手段でもあります[10]。そのため、大学では、学部および大学院の教授法、専門教育、幹部および成人教育、オンライン学習、共同カリキュラム活動、学生クラブおよび社会を含む広範な学習活動を通して、SDGsの実装において非常に重要な役割を果たしています。

学習と教育はどれほどSDGsにふさわしいか？

SDG 4は、「包括的で公平な質の高い教育を提供し、全員に生涯学習機会を促進する」というものであり、SDG 4により持続可能な発展への教育の重要性が認識されています。このSDG 4の下位目標の中には大学への直接の呼びかけもあり、他の多くも大学内での学習や教育活動に関連しています(表1参照)。

表1:学習と教育に直接関係するSDG

Goal	Target
	4.3 2030年までに、すべての人々が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。
	4.4 2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。
	4.5 2030年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子どもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。
	4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
	4.a 子ども、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、すべての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。
	4.b 2020年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国、ならびにアフリカ諸国を対象とした、職業訓練、情報通信技術(ICT)、技術・工学・科学プログラムなど、先進国及びその他の開発途上国における高等教育の奨学金の件数を全世界で大幅に増加させる。
	4.c 2030年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国における教員研修のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる。

教育は1つの目標(SDG 4)の焦点ですが、他のすべてのSDGsと緊密に連携しており、実装をサポートする上で重要な役割を果たします。その理由は:

・質の高い教育は、個人、したがってコミュニティや国の開発成果の向上につながる[11]。これには、有益な雇用へのより良いアクセス、栄養と健康の向上、ジェンダー格差の縮小、災害時の回復力の強化、市民の関与などが含まれる。

・SDGsを実施するには、複合的な相互関係、不確実性、価値観の矛盾など、多面的で相互に関連した社会的、経済的、環境的課題に取り組む必要がある。これらの課題の多くが解決できなかった理由には、要素分解的思考や、人間という要素の無視、二元的な(あるいはその両方の)解決策を探すという、人間の傾向があったことが実証されている。複雑さを通じて考え、パラダイムを超え、対話とコミュニケーションを通じて学び、深い内省を行い、世界観を育てて価値観に対して敏感となり、活動がSDGsの達成にいつ後押しとなりいつ阻害因子となるかをアセスし、という教育を他の重要な技術や知識や職能教育と並行して行うことで、より効果的なSDGs実装者の育成を後押しし、すべてのSDGsの実装を加速するのに役立つだろう[12]。

ジェンダー、性的アイデンティティ、人種、年齢、文化、民族、宗教、障害、経済的地位または場所にかかわらず、すべてのSDGsへの教育の重要性のために、アクセス可能で手頃な価格の包括的な教育を提供することも重要です(セクション2.3を参照)。

大学は何をできるか?

まとめると...

- ・ SDGsの課題を理解し解決するための知識、スキル、動機づけを学生に提供する
- ・ 若者の能力を強化し、動機づける
- ・ SDGsソリューションを実装するための十分な学術的または職業的トレーニングを提供する
- ・ 開発途上国の学生や専門家のキャパシティ・ビルディングの機会を増強し、SDGsに関する課題に取り組んでもらう

SDGsの課題を理解し解決するための知識、スキル、動機づけを学生に提供する

効果的なSDGsの実装をできる人材になるためには、学生は次のことを必要とします[13, 14]:

- すべてのSDGsに関連するクロスカuttingなスキルと、鍵となるコンピテンシー: システム思考、批判的思考、自己認識、統合された問題解決、予測的、規範的、戦略的およびコラボレーションの能力。創造性、起業家精神、好奇心と学習スキル、デザイン思考、社会的責任、パートナーシップ能力、学際的な環境で快適さを感じられること。
- 各SDGsの主題分野の基本的な理解。
- SDGsフレームワーク自体とその目的と使用方法に関する知識と理解。

SDGsのための教育は、持続可能な発展のための教育(ESD)でのより一般的かつ確立された分野と緊密に調和していて、そのアプローチと方法論に基づいて構築することができます。ESDはSDGsにもますます集中しており、学習目標[15]や識字率テストなどのためのリソースやツールを開発しています。

ⁱ例えば、Sulitest (www.sulitest.org)。

SDGsのための教育に資するために、大学は以下のことができます:

- SDGsとESDの原則をすべての学部および大学院、大学院の研究トレーニングのコースに統合する
- すべてのカリキュラム開発者、コースコーディネーター、教員にSDGsとESDに関するトレーニングを提供する
- SDGsに関する外部ステークホルダーのための幹部教育とキャパシティ・ビルディングのコースを提供し、SDGsに対処するために必要な知識とスキルを提供する
- SDGsのための教育を支援する国や地域の教育政策を支持する
- SDGsの学習を支援する学習環境と機会の共同創造に学生を関与させる
- 学生が反復的に行動して反映し、目的に向けて適応力を発揮する機会があるようなコースを、変化のためのリアルワールドにおける協働的プロジェクトの周辺で構築する

若い人をカづけ動機づける

若者は、SDGsの達成を支える重要な担い手であり、達成に貢献するための重要な役割も持っています。彼らは創造的で、元気で、理想主義的で、前向きで、未来について楽観的であり、グローバルで、挑戦的であり、意味のある貢献をしたいのです。そのような存在として、将来的にだけでなく、**いま**将来の持続可能な発展の主要な推進要因となる可能性を秘めています¹。大学は、若い世代の人々の大きな集団に対する独自のアクセスを利用して、すべてのSDGsに直接次のように貢献することができます:

- 若者の意見を聞く機会を設け、SDGsに関する大学ガバナンスの決定に参加してもらう
- SDGsフレームワークやSDGsの課題に対する解決策の認識を、コース、学習および教授プログラム、学生指導プログラム、ハカソン、革新と起業家精神の課題、勉強ツアーなどの学生の共同カリキュラム活動の基礎として使用する。また、高校生に向けた受験募集活動にも活用する
- すべての学生クラブや学生ソサエティがSDGsに関与し、SDGs関連のイベントや活動について互いに協力するよう奨励し、支援する
- SDGsに取り組む学生のボランティア活動を促進する
- イベント、キャンペーン、プロジェクトを通じてSDGsの背後にあるキャンパスと学生グループを動員するネットワークやクラブを設立する学生を支援する
- 学生が、例えばSDSN Youthのような、SDGsの若者のための国内および国際的リーダーシッププログラムに参加することを支援する

SDGsソリューションを実装するための、十分な学術的あるいは職業的なトレーニングを提供する

大学は、SDGsの実施に必要な卒業生を訓練していることを確認することで、すべてのSDGsに貢献することができます。大学は、今日存在する仕事だけでなく、将来存在する仕事のために、彼らが機敏で、変化に迅速に対応し、将来的に集中できるようにする必要があります。これをサポートするために、大学は以下を行うことができます:

- 雇用者の傾向やスキルの要件をモニターするために、ビジネスや産業との強力な連携を形成する。
- エクゼクティブの教育、オンライン学習、職業訓練など、生涯学習の機会を増やす。

¹例えば、SDSN Youth 2017, Youth Solutions Report, (www.youthsolutions.report).

開発途上国の学生や専門家の能力開発の機会を強化しSDGsに関する課題に取り組む

発展途上国が自らの持続可能性の課題に取り組むのを支援するために、教育による能力開発は重要な「実施手段」です。

大学は、留学生や卒業生、国際キャンパス、学術交流プログラム、スタディツアー、途上国の大学とのパートナーシップを通じて、発展途上国との広範なつながりを持っています。大学はこれらのリンクを活用して、SDGsにかかわる能力開発をさまざまな方法で支援することができます。

- ESDがすべてのコースに含まれることを確認しつつ、留学生にSDGsへ参加してもらう
- 持続可能な発展に関する、またSDGsの課題に対処する方法に関する、無料の質の高いオンラインコースを開発する
- 開発途上国の大学とSDGsに対処するための国内研修プログラムとの交流関係を構築する
- 途上国の学生にSDGs関連の奨学金を提供する
- 奨学金への資金援助とSDGsの達成を支援するための国別教育の改善を支援する海外開発援助を行う

ケーススタディ

1. 「Take One Step」による学生の巻き込み (Monash University) [Annex B.1]
2. SDGsのための持続可能な開発の博士号 (Curtin University) [Annex B.2]
3. 開発実践プログラム (James Cook University) [Annex B.3]
4. SDGsに関する学生リーダーシップフォーラム (Monash University) [Annex B.4]
5. SDG 1の教育 (The University of Sydney) [Annex B.5]
6. SDGsによるカリキュラムのマッピング (Victoria University of Wellington) [Annex B.6]

有用な資料

ESDを実施するために利用可能な多くの資料は、SDGsに関する教育の出発点としても優れています。特にSDGsのための教育に取り組むリソースもますます増えています。有用なリソースは以下のとおりです：

公開資料

- UNESCO 2017, *Education for Sustainable Development Goals: Learning objectives*, UNESCO, Paris, unesdoc.unesco.org/images/0024/002474/247444e.pdf.
- Morin, E 1999, *Seven complex lessons in education for the future*, UNESCO, Paris, unesdoc.unesco.org/images/0011/001177/117740eo.pdf.
- SDSN General Assembly 2017 *The role of Higher Education to foster sustainable development: Practices, tools and solutions*, Position paper, www.sdsn-mediterranean.unisi.it/wp-content/uploads/sites/30/2017/08/Testo-positional-CON-FIG-1.pdf.

無料オンラインコース

- **SDGs Academy:** 持続可能な発展に関する世界有数の専門家の教育資源と無料のオンラインコース。 courses.sdgacademy.org.

ネットワークとウェブサイト

- **Education for Sustainable Development (UNESCO):** 持続可能な発展に関するニュース、出来事、出版物に関する教育の視点からの有益な情報。 en.unesco.org/themes/education-sustainable-development.
- **Global Action Programme on Education for Sustainable Development (UNESCO):** SDGsの教育に関する具体的な行動の始め方と拡大の仕方に役立つ資料。 en.unesco.org/gap.
- **Principles for Responsible Management Education (PRME):** 国際的な価値をカリキュラムと研究に組み込むことによって社会的責任を果たしSDGsを推進するための、国連グローバル・コンパクト内のビジネススクールの取り組み。 www.unprme.org.
- **SDSN Youth:** 持続可能な開発の解決策を創造するために世界の青少年に力を与えるために働く、持続可能な開発ソリューションネットワーク(SDSN)の若手部門。 sdsnyouth.org.
- **The Sulitest Initiative:** サステナビリティ・リテラシー・テストは、卒業生や従業員の持続可能性に関するリテラシーを、測定し改善するための高等教育機関その他に向けたオンラインツール。 sulitest.org.

2.2 研究








SDGsを達成するためには、地球規模のコミュニティでの困難で複雑な社会的、経済的、環境的課題を克服する必要があります。その中では、社会と経済が機能するか、どう地球と関わるかについて、方法の変革が必要です。大学は、幅広い研究能力と活動を通して、この課題を支え、支援するために必要な知識、エビデンススペースのソリューションやイノベーションを提供する重要な役割を担っています[16,17,18,19,20]。

研究はどのようにSDGsと関連するか?

研究に関係するSDGs目標に応える

いくつかのSDGs目標は、SDGsに対処するための主要な要素として研究関連活動の必要性に直接言及しています。これらの目標の多くでは、SDGsの「実施手段」とみなされています。これらの目標は表2に要約されており、すべて大学ベースの研究に関連しています。

表2: 研究に直接関連するSDGs指標.

Goal	Target
	<p>9.5 2030年までにイノベーションを促進させることや100万人当たりの研究開発従事者数を大幅に増加させ、また官民研究開発の支出を拡大させるなど、開発途上国をはじめとするすべての国々の産業セクターにおける科学研究を促進し、技術能力を向上させる。</p> <p>9.b 産業の多様化や商品への付加価値創造などに資する政策環境の確保などを通じて、開発途上国の国内における技術開発、研究及びイノベーションを支援する。</p>
	<p>SDGs 2.a、3.b、7.a、12.aは、持続可能な農業、ワクチン開発、持続可能な消費と生産に関する科学的研究とインプットの必要性をそれぞれ示している。SDGs 14.3、14.4、14.5、14.aは、海洋および漁業管理に取り組む際の科学的インプットの必要性を示す。</p>
	
	
	
	
	<p>17.6 科学技術イノベーション(STI)及びこれらへのアクセスに関する南北協力、南南協力及び地域的・国際的な三角協力を向上させる。また、国連レベルをはじめとする既存のメカニズム間の調整改善や、全世界的な技術促進メカニズムなどを通じて、相互に合意した条件において知識共有を進める。</p> <p>17.8 2017年までに、後発開発途上国のための技術バンク及び科学技術イノベーション能力構築メカニズムを完全運用させ、情報通信技術(ICT)をはじめとする実現技術の利用を強化する。</p>

すべてのSDGsの実装を支援する

物理学、社会科学、生物医学、工学、人文科学の研究、知識創造と革新は、より広くは、すべてのSDGsを成功裏に実施するために、基本的なものです[21]。研究は次のことの基礎となります：

- **課題挑戦内容の理解：** SDGs (Annex A参照)に代表される持続可能な発展の課題の原因と動態を理解し、それに対処するための最善の政策と解決策を特定する必要がある。研究は、これらの課題に貢献する物理的世界、人間のシステム、およびそれらの間の相互作用についての我々の理解における多くのギャップを埋めるために重要である。
- **SDGsアジェンダのローカライゼーション：** 研究はまた、関連する地域の課題、行動の優先順位、地域の進捗状況を測定するための適切な指標の特定を支援することを含めて、世界的なSDGsアジェンダを、国内および地域の状況に翻訳する重要な役割を担っている。
- **ソリューションの開発：** SDGsの課題に沿った社会的、技術的革新とソリューションの開発を推進するための研究が必要である。これには、ソリューションの開発、テスト、先導、アップスケーリング、実装されている条件と障壁の理解が含まれる。
- **オプションと経路の特定と評価：** SDGsは、我々がどこに行くかを知る意味では、"方向指示" [22]である。しかし、そこに到達するための最善の道筋を見つけることは、各国と地域社会の根本的に異なる状況、あるいは目標間のトレードオフや相乗効果をもたらす相互依存関係[23、24]のために困難なことがある。すべての経路には勝者と敗者が含まれる可能性がある。モデル化と「バックキャスト」アプローチを用いた研究を通じて、政策立案者と政策立案者を支援する重要な役割を果たせる可能性があり、SDGsを達成するための最も積極的で効率的で一貫した経路を評価し、特定できる可能性がある。
- **SDGsフレームワークの運用を支援する：** グローバルSDGsアジェンダを形成する上で、研究コミュニティは重要な役割を果たした。しかし、それを実施する最良の方法については未だ多くのギャップや未知数がある。そのため、研究は、進捗状況のモニタリングと評価方法の決定、目標間の相互リンクの体系的な対処方法、SDGsの議題を国内および地域の政策枠組みに組み込む方法などにおいて重要な役割を担っている。研究コミュニティはまた、SDGsⁱⁱの世界的な進展を合成し、評価する上で重要な役割を果たすだろう。最後に、研究コミュニティには、データの収集、管理、分析のための重要な専門知識と施設があり、SDGsの進捗状況をモニターする巨大なタスクに多くのサポートを提供することができる。

研究環境に関連するSDGsの実装

多くのSDGsは、研究活動が行われている環境との関連性が強いのです。とりわけ：

- **SDG 5**（「ジェンダー平等を達成し、すべての女性と女児に力を与える」）や**SDG 10**（例えば「10.3: 平等な機会を確保し、結果の不平等を軽減する...」）： 科学研究における多様性の欠如、特に科学、技術、工学、数学、および医学ⁱⁱⁱにおいて、はよく知られており、科学研究の質と成果を損なう可能性がある[25]。（2.3節参照）
- **SDG 4.7**（「すべての学習者が持続可能な発展を促進するために必要な知識とスキルを身につけるようにする」）： これは、次世代の研究者が、持続可能な開発に関する研究を行うよう訓練されていることを保証することに関係する。（2.1節参照）

ⁱ例えば、the Deep Decarbonisation Pathways Project (deepdecarbonization.org)。

ⁱⁱ例えば、through the UN's Global Sustainable Development Report, which aims to "provide a strong evidence-based instrument to support policymakers" in implementing the SDGs (sustainabledevelopment.un.org/globalsdreport/2019)。

ⁱⁱⁱ例えば Science, Workplace Diversity, www.sciencemag.org/careers-career-article-genre/workplace-diversity。

大学は何ができるか?

まとめると...

- SDGsを大学内の研究課題として奨励し、促進する
- SDGsに取り組むために必要な研究アプローチの全面的なサポート（学際的および学際的な研究を含む）
- 持続可能な発展ソリューションのための革新を支援し、インキュベートする
- SDGsの国内および地域の実施を積極的に支援する
- SDGsに関する国からの支援と研究の調整を提言する
- 開発途上国がSDGsに関する研究を実施し、利用するためのキャパシティビルディングを支援する

SDGsを大学内の研究課題として奨励し、促進する

SDGsは、世界が直面している最大の課題のいくつかを表しています。それらに対処するためには、持続可能な発展はあらゆるレベルで将来の研究の基礎となる必要があります[26]。これは、大学の政策と文化の中で内在化されるSDGsに関する研究の支援を必要とします[27]。これをするために大学ができることは:

- 早期キャリアにある研究者を含む研究者の間で、SDGsの認知度とプロファイルを高め、新しい空間でのプロファイルとプレゼンスを構築していく
- 研究者が、各研究活動が現在どのようにさまざまな目標と関連しているかを理解するのに、役立たせる
- 大学の研究と研究の強みがSDGsとどのように一致しているかをマップし、主要研究者を特定する
- SDGsに関する研究の優先順位をつけ、適切な学術スタッフを募集する
- SDGsへの貢献を評価する学術的な昇進基準を作成する
- SDGsに関連した研究を紹介し、フラグシッププロジェクトでSDGsをハイライトする
- 大学の研究がSDGsにどのように貢献しているかを定期的に報告する
- SDGsを支援するためのグローバルな研究コミュニティの取り組み(国際的な評価や現状の知識の合成など)に従事する研究者を奨励し、支援する

SDGsの枠組みは、大学が研究のインパクトを報告する世界的に強い流れにもよくあっています。

学際的研究および学際的研究を含む、SDGsに取り組むために必要な研究アプローチの全面的なサポート

SDGsによって提起される課題の幅と性質に対処するために、幅広い研究アプローチが必要です[28,29,30,31]。これらのアプローチには、より多くの従来の学問的アプローチ(自然科学、社会科学、工学と技術の研究)を含んでいて、特に我々の知識と「現在どうなっているか」のギャップを埋めるための**基礎的実証研究**、特定のSDGsの課題を解決するにあたり「何が現実的か」を知るための**応用、実用研究**を必要とします。

しかし、より新しいアプローチが、SDGsの複雑さと現実のコンテキストに対処するために重要です。これらのアプローチはSDGsを公平に達成するために「何が出来るか」を探索するのに役立ち、また価値観によって導かれます[32]。こうしたアプローチは次のようなものを含みます：

- *持続可能性科学*—あるいは、持続可能な開発のためのより広範な研究—：自然、社会、経済システムの相互作用と緊急性がどのように持続可能な開発の課題を形成しているかを理解するための新たな研究の分野と、より持続可能な成果に向けた変革を行う。
- *学際的およびアカデミア外との連携アプローチ*：複雑な社会的、環境的、経済的課題のすべての側面を明らかにするために、さまざまな学問分野、分野、および知識の種類（伝統的、実務者、専門家、市民など）を集める。
- *共同設計および共同制作アプローチ*：政策立案者や知識のユーザーと密接に協力して問題を定義し、研究方法論を計画し、研究を実施する。
- *包括的なアプローチ*：女性[34]、先住民、多様な文化、世界観、イデオロギー、あるいは伝統的な知識のような知識の形態などの、研究ではしばしば不十分にしか代表されていない重要なグループを見出し関与する。
- *政策関連のアドバイス*：政策立案者が異なる政策オプションの影響を理解し、新しい政策を設計するのを助けるために、既存の知識と研究を使用する。

これらの新しい研究アプローチは、伝統的なアプローチ、特に伝統的な大学の構造の中で実行することが難しい場合があります。さまざまな分野のステークホルダーと信頼関係を構築するためには、時間がかかります。研究資金と研究誌は、既存学体系に基づく研究に偏っていることがあります。高度に適用された問題と政策助言に関する研究は、複雑な空間の性質がより明確になるにつれて、方法論とタイミングがしばしば大きく変化するため、困難です。さらに、一般的に出版物や助成金に基づいた学術成果や報酬体系は、しばしば協働的活動にインセンティブを与えません。

しかし、SDGsに取り組むためには、大学がこれらの研究アプローチ、特に学際的アプローチやアカデミア外との協働アプローチ（例えば、ワークロードの配分や学術寄稿の承認など）を奨励し、支援することが不可欠です。大学はSDGsを使用してこの課題に取り組むことができます。例えば：

- 大学研究をSDGsにマップし、学際的な連携の機会を特定する(4.1節参照)
- 既存のSDGs関連の学際的な研究努力と大学内の能力を特定する
- 学際的研究や他の新しい研究アプローチにおけるすべての研究者（早期キャリア研究者および大学院生を含む）の能力を構築する
- SDGsに関する学際的・学際的研究に向けてシード資金と奨学金を提供する
- 分野間の相互作用、アイデアの生成、統合を促進するための構造とフォーラムを提供する
- 研究のインセンティブ構造とプロモーションの機会に、共同研究と統合的、システム設計、ソリューション指向のアプローチの価値と妥当性を反映する

持続可能な発展ソリューションのための革新をサポートし、インキュベートする

大学はイノベーション、創造と発見の中心であり、20世紀のほとんどすべての主要技術の開発に貢献してきました。そのような存在として、SDGsの課題を超えた社会的、技術的な革新とソリューションの開発を推進するのにも役立ちます。大学は、持続可能な開発のための技術とサービスを提供する、大学の研究プログラムの近くに立地しているハイテク企業のような企業を支援し、ホストするためのイノベーションのハブとしての役割を拡大することができます。そのためにできることとして：

- 企業と協力して、SDGsに対応するための新しい技術とソリューションを開発する
- SDGsに触発され、SDGsへの貢献によって評価された大学の研究プログラムに関連する新興企業を育てる
- SDGs関連の課題、提携ビジネス、大学に基づく研究に焦点を当てたイノベーションハブを確立する
- ビジネスへの採用のための「概念実証」SDGsソリューションを開発する
- 大学と企業間のSDGs関連の交換プログラムを開発する
- 大学および外部ステークホルダーの研究者のためのSDGsに取り組むためのイノベーションの課題を整理する
- プロセスが他のすべてのSDGsに対する提案されたソリューションの影響を評価し、コベネフィットを最大化し、悪影響を最小限に抑えるように奨励する(セクション4.5を参照)

SDGsの国内および地域における実施を積極的に支援する

- SDGsを使用して、特定のSDGs挑戦に関する産業、政府、コミュニティ、民間セクター、NGOとの協力関係を構築する
- 問題と挑戦を特定するプロジェクトを開始し、政策と戦略を策定し、介入の有無にかかわらず将来のモデルを立て、介入を監視し報告し、適応管理を可能にするなど、持続可能な開発のための政策立案において主導的役割を果たす
- ビジネス、州政府、地方自治体などの他のセクターへのSDGs導入に関する専門家の助言を提供する
- 地域に合わせたSDGsターゲットと指標、およびモニタリングと報告メカニズムに関する専門家的アドバイスを提供する
- SDGsを「現地教育place-based learning」の学習の基礎として、また大学が学習プログラムや研究でコミュニティに参加しようとする場所として活用する

SDGsに関する全国的な支援と研究の調整を提案する

政府のコーディネートや全分野からの国規模での実施のための資金調達、そして英国でのグローバルチャレンジ研究基金などの学際的およびSDGs関連研究のための国家研究資金など、外部の研究環境の変化があれば、SDGsのための大学研究を大幅に促進するでしょう。

- SDGsに関する研究や一般的な学際的研究への国家政策と資金援助を提案する
- SDGsの取り組みに関する国の研究課題と優先事項の設定を支援する

ⁱ www.rcuk.ac.uk/funding/gcrf.

開発途上国がSDGsに関する研究を実施し、利用するための能力開発を支援する

科学研究のための能力開発は、SDGsのすべての分野に必要であり、また関連しています。多くの大学はすでに研究能力向上に重要な役割を果たしているため、これらの既存の活動に追加しての構築と拡大をすることができます。

- 開発途上国の大学とSDGsに関連する分野とのパートナーシップやプログラムを交換する
- SDGsに関する共同研究プロジェクトを奨励し、異文化研究を実施する能力を構築する
- コミュニティや国々との知識交換を促進し、SDGsの共通課題に対処する方法を容易にする
- SDGsの進捗を監視するという大きな課題を国が支援するために、データ収集と解釈の専門知識を共有し、大規模なデータセットを管理するための高性能施設やソフトウェアへのアクセスを共有する

ケーススタディ

1. SDG6を実現するためのディスカッションペーパー (University of Queensland) [Annex B.7]
2. UTSディベロップメントネットワーク (University of Technology, Sydney) [Annex B.8]
3. SDGsアイデアフォーラム (Victoria University of Wellington) [Annex B.9]
4. SDGs研究ウェブサイト (University of Western Australia) [Annex B.10]
5. 「安全な家族」研究プロジェクト (Monash University) [Annex B.11]
6. 研究をSDGsでマッピングする (Institute for Sustainable Futures, UTS) [Annex B.12]

有用な資料

公開資料

- Schmalzbauer, B & Visbeck, M (eds) 2016, *The contribution of science in implementing the Sustainable Development Goals*, German Committee Future Earth, Stuttgart/Kiel. futureearth.org/sites/default/files/2016_report_contribution_science_SDGs.pdf.
- Dena, F, Palmer, J, Riedy, C & Mitchell, C 2017, *Transdisciplinary research and practice for sustainability outcomes*, Routledge, London. www.routledge.com/Transdisciplinary-Research-and-Practice-for-Sustainability-Outcomes/Fam-Palmer-Riedy-Mitchell/p/book/9781138119703.
- Brown, RR, Deletic, A & Wong THF 2015, 'Interdisciplinarity: How to catalyse collaboration', *Nature*, vol. 525 (16 September), pp. 315–317. www.nature.com/news/interdisciplinarity-how-to-catalyse-collaboration-1.18343
- ICSU & ISSC 2015, *Review of the Sustainable Development Goals: The science perspective*, International Council for Science (ICSU), Paris. www.icsu.org/publications/reports-and-reviews/review-of-targets-for-the-sustainable-development-goals-the-science-perspective-2015
- Elsevier 2015, *Sustainability science in a global landscape*, www.elsevier.com/research-intelligence/resource-library/sustainability-2015.

ネットワークとウェブサイト

- **Sustainable Development Solutions Network (SDSN):** SDSNは、学界、市民社会、および民間部門の科学技術専門家を動員し持続可能な開発にかかわる地域、国家、国際レベルでの実践的な問題解決を支援するために、2012年潘基文国連事務総長によって委任された組織。
unsdsn.org.
- **Future Earth:** 地球規模の環境変化と地球規模の持続可能性に関する主要な国際的研究プラットフォーム。
www.futureearth.org.
- **td-net:** 学際的および学際的な研究と教育の分野における研究者と資金提供者のためのプラットフォーム。知識を共有するための専門知識、方法およびツールを提供。
www.transdisciplinarity.ch/en/td-net/Ueber-td-net.html.
- **Integration and Implementation Sciences (I2S):** 複雑な現実問題に対する研究活動成果を向上させるためのハブ。
i2s.anu.edu.au.

2.3 大学の組織ガバナンス、文化、運営

大学は多く、大規模な存在で、キャンパス、コミュニティ、地域内の社会的、文化的、環境的な幸福に重要なインパクトを持てる可能性があります。大学によるこれらのインパクトは、SDGsのすべての分野に直接関係しており、大学は責任を持って行動することで、成果に大きく貢献することができます。

組織ガバナンス、文化、運営がSDGsに関連する理由は？

すべての組織は、SDGsがその運用範囲内でどのように現れているかに多少の影響を受けます。組織の性質や規模に応じて、SDGsの中でどれか、時にはすべて、が影響を受けることもあります。これらの影響を特定し、それに対処する責任を持って行動することによって、すべての組織がSDGsに貢献することができます。

大学はしばしば主要な雇用主、消費者、投資家、不動産所有者です。大学は、スタッフ、学生、関係業者の大きなコミュニティを管理しています。そのキャンパスは、小都市のような大きさとして機能します。周辺地域へのインフラ投資を必要とする人や物資の重要な流れを作り出すことができます。サプライチェーンや国際的な取り組みを通じて、地域をはるかに超える影響力を持つこともできます。その結果、大学はSDGsのそれぞれに影響を与え、その影響は大きくなる可能性があります。

大学は何ができるか？

まとめると...

➤ 大学ガバナンスの構造と運営方針をSDGsの目標に合わせる

大学ガバナンスの構造と運営方針をSDGsの目標に合わせる

大学は、学内の方針や運営を通じてSDGsの各分野に及ぼす影響を扱うことで、SDGsの達成に大きく貢献することができます。大学が取りうる行動の例を表3に示します。

大学内の業務に適用されるSDGsの議題と、すでに多くの大学が深く携わっているCSR(組織の社会的責任)および持続可能なキャンパス活動との間には重要な重なりがあります。SDGsは、これらの活動をリンクし、外に示し、構築する機会です。

これらの措置は、雇用、金融、キャンパスサービス、サポートサービス、施設、調達、人事、および学生管理に関連するガバナンス構造および運営方針および決定を通じて、主に管理されます。これらのSDGsとの整合性を保証することは、すべての分野で流通行動と説明責任をもたらすでしょう。これを始めるために大学が取れるアクションには次のことがあるでしょう:

- 高等教育機関の戦略、方針、計画、報告指標がSDGsとどのように整合し、どの組織単位がどのSDGsに関連しているかを特定する
- SDGs間の大学の対応における重要なギャップを特定し、対処する
- SDGsを大学の組織報告に組み込む(4.6節も参照)

大学は、CSRと持続可能なキャンパスの周辺に存在する広範なリソースとネットワークを活用して、さらなる実装を支援することができます(このセクションの最後にある「役に立つリソース」を参照)。SDGsが確立されるにつれて、これらのリソースはますますそれらの周りで再構成されています。

表3: 大学が学内運営でSDGsに貢献するためにとることができるアクションの例

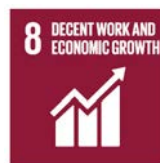
Goal	アクションの例
	<ul style="list-style-type: none"> フェアトレードと倫理的サプライチェーンの確保 環境、社会、ガバナンス(Environment, Social and Governance、ESG)原則を推進する投資政策 奨学金や援助パッケージなど、貧困状態にある学生のための支援体制の提供
	<ul style="list-style-type: none"> キャンパスにおいて、持続可能で、栄養価が高く、手頃な価格の食糧を提供する キャンパスでの食糧生産の促進 新鮮な食品市場をキャンパスで提供する キャンパス内の食品廃棄物削減対策の導入
	<ul style="list-style-type: none"> キャンパスで手ごろな価格の健康と福利サービスへのアクセスを提供する スタッフと生徒のための健康プログラムを提供して、非感染症疾患(NCD)の発生率を減らし、精神的健康を促進する キャンパスで「禁煙」政策を実施する 有害物質を扱うための適切な慣行の確保
	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者、先住民、経済的困難を経験している人々を含め、立場の弱い人々や不利な条件にある人々が、大学に完全にアクセスし、参加することを支援する 地域の学校や地域の識字率向上のためのプログラムを提供する 学習の包括性を勇気づけ促進する施設を提供する
	<ul style="list-style-type: none"> 大学の指導的地位やより高い教員職位で女性を代表できる存在を増やすなど、ジェンダー平等戦略を職場で実践する ジェンダー・ペイ・ギャップを縮めるための取り組み キャンパスで育児支援を提供し、職場の柔軟性を促進する 女性に対する暴力防止のための全国キャンペーンに参加し、施設で行われた性暴行の件数について報告することを約束する

Goal

アクションの例



- 環境に配慮した持続可能な設計の方向を設備整備に組み込む
- 学生、スタッフ、訪問者に無料の飲料水を提供する
- ゼロエミッション排出政策を策定し、キャンパス内の再生可能エネルギー生産に投資する
- 気候に対する緩和と適応の戦略を実施する
- 気候変動のリスクを、リスクの報告枠組みに含める
- 資源効率化と管理についての長期的な計画の策定
- キャンパス内外の水回りの管理とモニター計画の策定
- キャンパス内の生物多様性と生態系の管理とモニター計画の策定
- 汚染を最小限に抑えるための適切な排水トラップの設置
- 水の活用、貯蔵および再利用システムの設置
- すべての廃棄物(有害廃棄物を含む)の削減とリサイクルの増加
- 有害廃棄物の処理と処分に対する安全講習の確実な実施
- 持続可能な輸送の利用の増加
- 持続可能性と倫理的配慮を購買方針、手続き、活動に組み込む
- Council(評議会)レベルでの持続可能性実績のモニタリングと報告
- すべての持続可能なキャンパス活動にスタッフと学生が関与する



- 公正性とアクセス可能性についての戦略と目標へのコミットメントと、雇用、訓練、規制方針を一致させる
- 適切に位置付けられた支援奨学金および財政援助スキームを、必要とする学生に提供する
- 受け入れ可能なリスクテイクの文化を通して創造性とイノベーションを支え、アイデアが花開くための適切な空間とプロセスを提供する
- 雇用成果とアカデミックワークロードの管理をモニタリングする
- 社会的、環境的に責任のある調達方針と手順を実施し、サプライチェーンの上下に影響を及ぼす
- 経済成長の意義を、クリティカルに問う
- 債券が必要な場合は、グリーンボンド(マーケットから温暖化対策や環境プロジェクトなどの資金を調達するために発行される債券)のみを発行する



- キャンパスの運用改善のための革新的な方法をテストし試行する
- ウェルビーイングを支援し、環境への影響を最小限に抑えるような、持続可能で回復力のあるインフラ構築にコミットする
- 既存建物の改修を確実にし、資源効率を高め、きれいで環境に優しい技術を採用する
- 持続可能で信頼できる情報通信技術のプロセスとサービスにコミットする

Goal

アクションの例



- 最低賃金と最高賃金である従業員の賃金格差の管理
- エクイティ・アジェンダを策定し、すべてのプロセスと活動、とりわけ賃金に関して、機会均等と不平等を軽減にコミットする
- 意思決定プロセスにおいて、構成員の多様性が代表され、発言の機会を保証することによって、大学全体から差別を排除することにコミットする
- 財政的・社会的に十分な立場を持ってない人々、背景、農村部や地方の人々、障がいのある人々、職場にいる女性、多様なジェンダーや性別の人々、多様な文化や宗教を持つ人々のために、支持的、包摂的で安全な職場と学習環境を提供する



- 幅広いコミュニティと業界のために、大学が開発した地球規模の課題に対応した持続可能なソリューションをスケールアップして提供する
- 安価で手頃な料金のキャンパス内および/または大学支援の住宅を提供する
- 大学の地域社会と最も影響力のある分野への開発、投資にコミットする(可能な場合)
- キャンパス境界の流動化を広げ、地域住民による緑地の公衆施設としての利用を促進する
- キャンパスが常に安全で緑色のままであることを保証することにコミットし、すべてのレベルの移動性にアクセシビリティを提供する
- 汚染管理(空気を含む)と廃棄物管理のプロセスと方針のベストプラクティスを実施する
- 地方自治体や政府と協力し、公共交通機関や自転車道を含む持続可能な交通システムへのアクセス向上と提供を提唱する



- キャンパスがすべてのスタッフ、学生、訪問者にとって安全であることを保証するための方針、手順、計画を策定する
- 調達方針と手続きが、人々の搾取への関与が既知または発見された企業との協力を認めないことを明確に示していることを確認する
- 武器、人身売買、現代の奴隷制度を扱う産業への投資を排除する
- 犯罪、腐敗、暴力、犯罪、テロ行為は受け入れられないという、機関の方針と文化が明確に示されていることを確認する
- 異文化間および宗教間の活動をキャンパス内で組織する
- すべてのスタッフと生徒が自分の権利に関する正義と情報にアクセスできるようにする
- スタッフ、学生、主要な関係者を大学のガバナンスの決定に関与させる



- 学内外のパートナーシップの開発、維持、強化を支持する戦略と文化を構築する

有用な資料

公開資料

- United Nations Environment Programme 2014, *Greening universities toolkit V2.0: Transforming universities into green and sustainable campuses*, web.unep.org/training/content/greening-universities-toolkit-v20-transforming-universities-green-and-sustainable-campuses-0. このツールキットは、緑にあふれ、資源効率の良い低炭素キャンパスを確立するための独自の変革戦略を、大学が開発し、実施することを刺激し、励まし、サポートするための、戦略、ツール、リソースをに提供しています。
- Wildlife and Environment Society of South Africa 2016, *Stepping up to the SDGs*, USAID, www.wessa.org.za/uploads/documents/WESSA_Stepping_up_to_the_Sustainable_Development_Goals_-_Jun_2016.pdf. SDGsを、実践的活動、年次計画、ネットワーキング、持続可能な拠点の発展などを含んだ日常の活動に、選択の変更を実践することで統合するための実践的なガイドです。

ネットワークとウェブサイト

- Australian SDGs Hub for Business (Global Compact Network Australia): 企業や他の組織のための、SDGsがそれら組織に関連する理由と、SDGsに貢献するためにできることについて説明された、「生きた」リソースです。 www.unglobalcompact.org.au/issues/sustainable-development/sustainable-development-goals-SDGs.
- The United Nations Global Compact: 企業が戦略と業務を、人権、労働、環境、腐敗防止に関する普遍的な原則と整合させ、社会の目標を進める行動を取ることを支援する世界最大の企業の社会的責任(CSR)報告組織です。多くの大学も加盟しています。 www.unglobalcompact.org.
- Australasian Campuses Towards Sustainability (ACTS): オーストラリアとニュージーランドの高等教育セクターのための会員制の協会です。ACTSは、持続可能性のための指導者、実務者、教育者の開発と連携を支援し、高等教育セクターをより持続可能なセクターとすることを目指しています。ACTSは、「グローバル・エデュケーション・アライアンス(Global Education Alliance)」への関与を通じて、世界中の他の同様の団体と強く結びついています。メンバーには、最新の問題や課題に関する定期的なニュースレター、ウェビナー、専門的な開発機会へのアクセスを提供されます。 www.acts.asn.au.

2.4 学外へのリーダーシップ

SDGs達成の成功は、すべてのアクターによる行動と協力を依存します[35]。社会の中での独自の立場を活用することで、大学は個人的にも集団的にも、SDGsに対する地方、国家、国際的な対応を導き、指導し、支援するのを助けることができます[36]。

なぜ大学のリーダーシップがSDGsにふさわしいのか？

SDGsを達成する活動は、すべてのセクターの動員を必要とする規模です。私たちは次の国連の「世界を変える」文書[37]に触発されました：「人類の未来と地球の未来は私たちの手にある...私たちは持続可能な発展の道を開いた。旅が成功し、その利益が不可逆的であることを確実にすることが私たち全員に不可欠である。」この「旅」には、「政府だけでなく、議会、国連制度やその他の国際機関、地方自治体、先住民、市民社会、民間セクター、学術コミュニティ、そしてすべての人々が含まれる。」

協働の重要性は、ターゲット17.16に述べられている通りです。コラボレーションは、「持続可能な発展のための国際パートナーシップを強化し、すべての国でSDGsの達成を支援するために、知識、専門知識、技術および財源を動員し共有する複数のステークホルダーのパートナーシップで補完される...」

この規模での動員と協力には、特別なリーダーシップとサポートを必要とします。SDGsを理解し、実施する能力を築くために、また、すべての利害関係者を活動に関与させ、異なるセクター間の会話、相互学習、パートナーシップを促進する必要があるからです。一般市民は、優先順位を特定し、オプションを議論し、自らの生活の実現に貢献することを通じて、SDGs実施の主要な利害関係者にもなります。しかしほとんどの国では、国民はSDGsに関する知識がほとんどなく、積極的に実施に参加する機会もほとんどありません。

大学は、社会の利益のために知識の創造と教育に専念する場所として、SDGsの実施にリーダーシップを提供するために特に適している、社会におけるユニークな地位を伝統的に占めてきました。大学は一般に信頼されており、他のセクターから中立的な存在となっています。多くの大学が公共の領域で特に顕著な影響を及ぼしています。また、能力開発と政策立案支援に欠かせない研究と教育の専門知識を持っています。多くの大学が「合理化と商業化」プロセスの下でこうした重要な役割を維持するのに苦労している中で、SDGsはこの役割を強化する機会を提供します。

大学は何ができるか？

まとめると...

- 大学は、SDGsに対処するための市民参加と参加を強化することができる。
- 大学は、SDGs実施に関する分野横断的な対話と行動を開始し促進することができる。
- 大学は持続可能な開発のための政策立案と提言において主導的な役割を果たすことができる。
- 大学は、SDGsの実施において大学部セクターの重要性を示すことができる。
- 大学はSDGsへの大学セクターの取り組みを示すことができる。

大学は、SDGsに対処するための市民参加と参加を強化することができる

- 大学は、SDGsの意識を高めるために、thinker(思索家)、コミュニティのイベントやフォーラムで公開講義を開催することができる。
- 大学は、行動、解決策、技術革新、技術に関する情報を提供し、アイデアや相互作用を求めるために、インタラクティブなワークショップや議論を促進することができる。

大学は、SDGs実施に関する分野横断的な対話と行動を開始し促進することができる

- 大学は中立的なプラットフォームとして機能し、異なるステークホルダーが集まりSDGsの実装の課題を率直に議論するための「安全な」スペースとなりうる。
- 大学は、特定のSDGsの課題に対処するためのソリューションに関する部門間の協力やパートナーシップを促進することができる。
- 大学は、持続可能な開発の分野で何が行われているのかを理解し、さらなる機会を特定するために、ビジネスおよび業界のパートナーと話すことができる。

大学は持続可能な開発のための政策立案と提言において主導的な役割を果たすことができる

- 大学は政策立案者と協力して、問題、オプション、解決策を特定し、政策評価を支援することができる。
- 大学は問題を政治で話し合われる議題に持って行くことができる。
- 大学は、特定のSDGs分野に関するガイダンスの生成と知識の統合を発展させられる。
- 大学は、SDGs実装をサポートするためのツールとリソースを開発することができる。

大学は、SDGsの実施において大学セクターの重要性を示すことができる

- 大学は、高等教育セクターおよび他のセクターと協力して、国や地域の実施に関する議論を開始し、先導することができる。
- 大学は、大学セクターの立場がSDGsの実施に関する全国的な対話とプロセスにおいて一貫して代表されていることを保証できる。
- 大学は、大学セクターによるSDGsに関する行動を動機づけるために、他の大学とのパートナーシップとネットワークを構築することができる。
- 大学は、SDGsの国内および地域の実施を支援するためのガイダンスとツールを開発する機会を積極的に探すことができる。

大学はSDGsへの大学セクターの取り組みを実証することができる

- 大学は、教育、研究、運営を通じて大学内のSDGsの実施を積極的に支援することができる。
- 大学は「SDGsへの大学のコミットメント」に署名し、SDGsを大学のマーケティングの重要な部分にすることができる。
- 大学は、SDGsを支援するための、高い評価を得た公的活動を開始することができる。
- 大学は、SDGsの重要性とそれに対処する必要性について、他のセクターや政府による行動を提唱することができる。

ⁱ ap-unsdsn.org/regional-initiatives/SDGs/university-commitment.

ケーススタディ

1. 西オーストラリアSDGsネットワーク (Curtin University Sustainability Policy Institute) [Annex B.13]
2. SDGsのローカリゼーションをオーストラリアでリードする (SDSN Australia/Pacific) [Annex B.14]
3. SDGsへの貢献を大学賞で表彰する (Western Sydney University) [Annex B.15]
4. 社会善サミット (The University of Sydney) [Annex B.16]

有用な資料

ネットワーク

- **Sustainable Development Solutions Network (SDSN):** 2012年に潘基文国連事務総長から委任された、学界、市民社会、および民間部門からの科学技術的専門知識を動員して、地方、国家、世界的規模での持続可能な開発のための実用的な問題解決を支援する組織。 unsdsn.org.

3. SDGsに貢献する大学

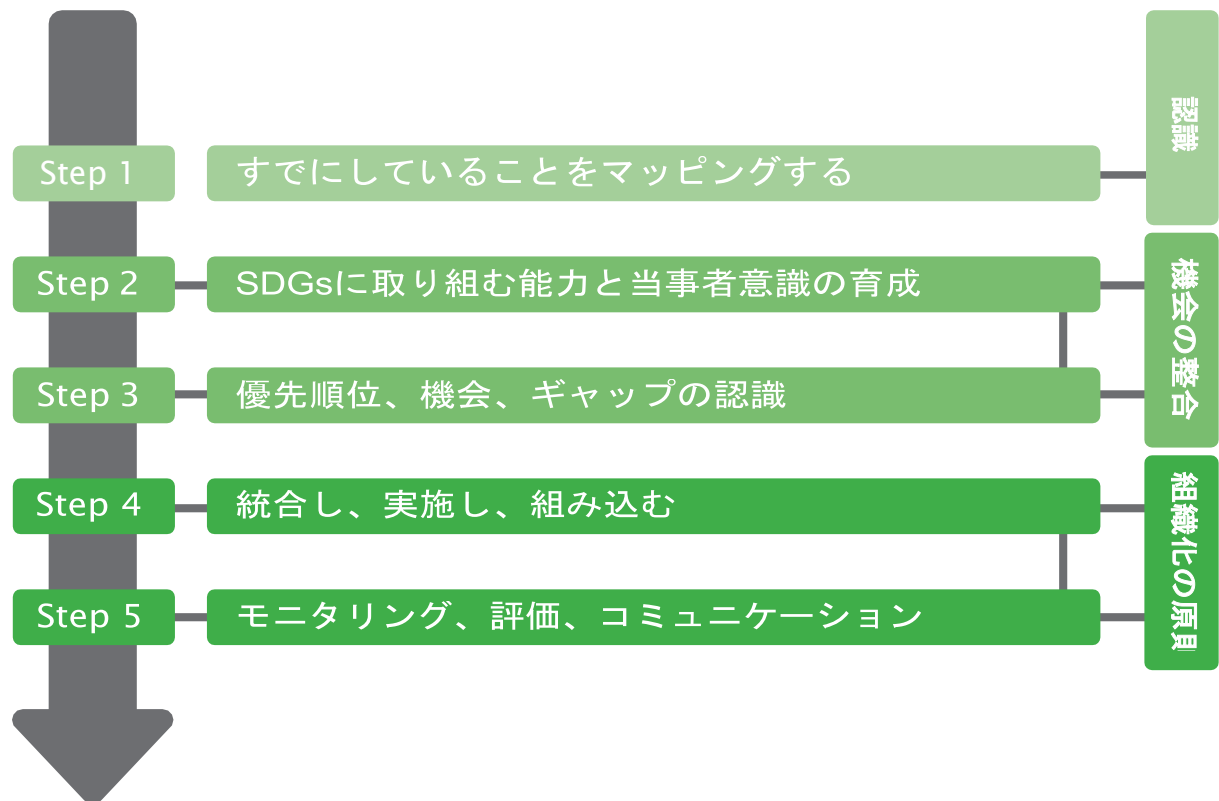
大学は、教育、研究、運営における「通常通りの」活動を通して、SDGsの達成に向けて多くの重要な貢献をしています。しかし、SDGsが世界規模で成功するためには、大学は持続可能な発展を先導し、SDGsの実施において主導的役割を果たす必要があります。これは困難な作業です。大学はしばしば、外部の構造的要因と内部の制約によって妨げられています。しかし、SDGsは、構造的な解決策に取り組むとともに、地方、国家、世界の幸福への貢献を加速するための枠組みを提供しています。

SDGsは、人類が直面している大きな課題を解決するために大学全体のアプローチを取るユニークな機会を提供します。SDGsは包括的で多様性があるため、主要言語となり、共同作業を構築するための共通言語とプラットフォームを提供します。一般に、大学はさまざまなレベルでSDGsに参加することができます。

- 認知: 大学がSDGsに貢献するために既に行っていることを見出し、認知することは、インパクトに関する力強い物語と、さらなる行動のための強力な推進力を提供することができます。
- 機会の整合: 大学のさまざまな分野で全体的な戦略なしに進められていた個別のアクティビティやプログラム(セクション2の例など)を、学内でSDGsフレームワークの有用性と重要性を認識することで、SDGsフレームワークを使用して構築または推進する機会にできる。
- 組織化の原則: SDGsの枠組みを認識し、関連するすべての大学ガバナンスの仕組みと枠組みに統合できれば、SDGsが大学のための「普段の仕事」の一部になり、さらなるインパクトがもたらされるだろう。

このセクションでは、大学がSDGsへの参加を開始し、深めるために取ることができるステップに関する指針を提供します。これらのステップは、他のガイドから取られたものですが、図3に要約されており、以下でより詳細に説明します。

図3: ステップバイステップのSDGs実装プロセスの俯瞰



¹特に、the Global Reporting Initiative, the UN Global Compact, and the World Business Council for Sustainable Development によるthe *SDGs Compass: The guide for business action on the SDGs* (2015) (SDGcompass.org); またthe Sustainable Development Solutions Network による*Getting Started with the SDGs in Cities: A Guide for Stakeholders* (2016) (SDGcities.guide).

これらのステップは一般的なガイダンスを提供することを目的としています。各大学の文脈と出発点によっては、一部の大学が1つのステップのみで作業したり、ステップをスキップしたり、いくつかのステップを共同で実行したり、異なるステップの手順を実行したりすることができます。

すべての大学がSDGsを実装またはサポートする一般的な方法は存在しないことを認識することが重要です。大学は、規模、構造、資金へのアクセス、持続可能な発展における既存の仕事、価値観、優先度、そして彼らが奉仕する地域社会のニーズなど、多くの点で互いに異なっています。SDGsに参加してこのセクションで説明されている手順を実行する方法を選択するには、これらの違いと機会が反映されている必要があります。

3.1 STEP 1: すでに行っていることをマッピングする

大学のすべての分野または特定の分野のSDGsを支援し、SDGsに貢献するために大学がすでに行っていることをマッピングすることは、より深い関与の可能性を発見するための素晴らしい出発点です。既に存在するものを可視化し、大学全体のシナジーを特定するための強力なツールです。

SDGsフレームワークを使用して大学のマッピング演習をガイドすることで、次のことが可能になります。

- SDGsの主要な利害関係者と潜在的なチャンピオンを特定する
- SDGsの優先順位と行動を特定するための基礎としての強みとギャップを特定する(ステップ2)
- SDGsへのさらなる大学の寄与に向けたビジネスケースを構築するのに役立つ

大学の活動をマッピングする前に、マップ作成にあたって、そこからどんなデータを期待し、そのためにどんなデータを必要としているのかを明確に理解しておく必要があります。これは情報源を特定するのに役立ち、あなたの調査分野に焦点を当てるのに役立ちます。

次のツールは、このステップを達成するのに役立ちます：

- a) SDGsへの大学の貢献をマッピング(セクション4.1)
- b) ステークホルダーエンゲージメントワークショップの実施方法(セクション4.2)

ケーススタディ

1. カリキュラムのマッピング (Victoria University of Wellington) [Annex B.6]
2. 研究のマッピング (Institute for Sustainable Futures, UTS) [Annex B.12]

3.2 STEP 2: SDGsに取り組む能力と当事者意識の育成

参加型アプローチをとることは、SDGsに取り組む上で重要です。これには、大学の生活や仕事に携わっているすべての人に関与してもらうことで、すでに進行中の作業を支持し、また取られた措置を実質的に自分のこととしてとらえてもらう状況を創り出すことによる、組織内および組織間の協力関係やパートナーシップが含まれます。

SDGsに取り組む能力開発をし、変化を自分のものとしてもらうためには、研究、学ぶこと、教えること、運営、ガバナンス、および文化を通じたSDGsへの現在の知識とコミットメントを理解する必要があります。この理解に達するには、ステップ1で収集された情報の蓄積が含まれる可能性があります。これは、既存の知識ギャップがどこにあるのか、大学の仕事と生活に対するSDGsの重要性をどのように提唱するかを示します。大学のさまざまな分野に関わるワークショップは、SDGsの現在の知識を理解し、SDGsと大学コミュニティとの関連性についての認識を高めるための優れた方法です。

SDGsの世界的および地域的な関連性について議論することにより、大学に関わる人々はSDGsの共通理解を深め、他者の仕事や関心を学び、共同作業や活動の領域を特定し、集合的かつ個人的な所有感を育てることができ、プロセスとコミュニティの集団的かつ個人的な所有を育むことができます。とりわけ学生集団との関与がこのステップのカギとなります。まず、SDGsの学生ワークショップを開催し、学生組織に直接関わることで始められます。

手順2を開始するには、次のツールが役立ちます：

- a) ステークホルダーを巻き込むワークショップの実施(セクション4.2)
- b) 大学のエンゲージのための業務書(ビジネスケース)の構築(セクション4.3)
- c) SDGsへの大学のコミットメント(セクション4.4)

ケーススタディ

1. 大学SDGsリーダーシップ ワークショップ (James Cook University) [Annex B.17]

3.3 STEP 3: 優先順位、機会、ギャップの認識

ステップ3では、ステップ2で確立されたSDGsへのコミットメントを発展させ、大学でSDGsの進捗と統合を始めます。このステップは、SDGsへの大学全体としての意向とコミットメントを設定する上で中心的なものです。

このステップを完了するための鍵は、大学がSDGsへのコミットメントを統合するために必要とするあらゆる行動に対して、現実的かつ段階的な基盤を設定することです。堅実かつ根本的な基盤を育成することで、実行においてその場しのぎや反動的な決定がなされることを回避できるでしょう。ステップ3では、主要な利害関係者(学生、スタッフ、コミュニティメンバー)を集めて、SDGsに対する行動の優先順位を決定し、SDGsを達成するために歩調を合わせて共同作業する機会を見出します。

次のタスクは、SDGs上で統合的行動を実施するための道を開くのに役立ちます。

- ステップ1および2(または大学の他のプロセスを通じて収集された情報)を見直し、大学に存在するSDGsへの取り組みのギャップと機会を見出し、理解する
- SDGsへのコミットメントを実施するための優先順位を見出す。これには重要なステークホルダーとの対話が重要。アジェンダ設定のワークショップを開催することを検討することもできる。これにより、大学全体または個別の分野の代表者が集まり、SDGsに向けた行動の議題を設定することができる。

優先順位、機会およびギャップを特定する上で、このステップを達成するために、学生の集団を含めた大学全体を関与させることが重要です。これは、大学全体のSDGsの統合的かつ協働による作業に不可欠だからです。

このステップにどのようにアプローチするかを設計するには、次のツールが役立ちます。

- a) SDGsへの大学の貢献をマッピング(セクション4.1)
- b) ステークホルダーエンゲージメントワークショップの実施方法(セクション4.2)

3.4 STEP 4: 統合し、実施し、組み込む

前のステップでは、大学が進むためのシーンが設定されました。このステップは、SDGsに対するコミットメントとアクションを統合して実装する最も良い方法を見つけるために使われます。これにより、あなたの大学がリーダーシップの役割を果たし、SDGsを先導できることが確かになります。

あなたの機関の状況に応じて、このステップでは、ガバナンスのためのさまざまな手段にSDGsを組み込み、SDGsに対する行動の調整メカニズムを確立し、ポリシー、戦略、および/または行動計画を実施します。このステップを完了するには、すべての主要な大学の戦略とポリシーでSDGsがどのように組み込まれるかについて、明確かつ広く支持された決定をする必要があります。これらの戦略と方針には、大学の戦略計画、研究のフレームワーク、学習と指導のフレームワーク、組織としての取り組みのフレームワーク、将来の生徒へのメッセージなどが含まれます。

すべての重要な戦略と政策でSDGsを主流にするためには、

- a) 大学全体の戦略とその支援要素にSDGsのコミットメントと行動を組み込む。または、
- b) 持続可能な発展へのコミットメントと行動を、持続可能な発展への大学全体のアプローチをまとめるための大学方針の部分に反映する

SDGsの枠組みが大学全体に統合され、「普段の仕事」となれば、真の変革の力が生まれます。

以下のツールを使用すると、この手順を完了できます。

- a) 大学をエンゲージするための業務書(ビジネスケース)を構築(セクション4.3)
- b) SDGsへの大学のコミットメント(セクション4.4)

3.5 STEP 5: モニタリング、評価、コミュニケーション

大学がSDGsへの貢献を評価し実施する方法は、将来の関与と行動を伝え、形成するための鍵です。一貫性があり、十分に基礎を固めたモニタリング、評価、コミュニケーションの計画により、大学は将来のSDGsへの関与のために必要な支援とSDGsの共有理解を広げる魅力的なストーリーを作成し共有することができるようになります。

測定し評価するために使用するツールは、すでに大学内に存在している可能性があります。たとえば、年次報告書や既存の多様性と包摂性に関する報告プロセスが存在している場合や、資金調達機関への報告がある場合などです。その際、大学やコーディネーターはSDGsにおける独自のベンチマークツールを開発することもあるでしょう。また、SDGsへの貢献に関する報告(セクション4.6)のツールが役立つかもしれません。

4. SDGs 統合のためのツールとガイド

SDGsは、政府、企業、産業、市民社会、教育のための枠組みを提供し、我々が望む未来に向けて協調して取り組む新たなアジェンダである。この新しいアジェンダは、学際的またアカデミアを超えた連携のアプローチを導入し、進展させ、標準化するための広い舞台を提供します。

このセクションでは、SDGsのアジェンダという新しい側面に対処するために大学がセクション3のステップを踏まえて取り組みを深めるのを支援するツールとガイダンスを提供します。

- SDGsへの大学の貢献をマッピングする(セクション4.1)
- ステークホルダー関与のためのワークショップの実施方法(セクション4.2)
- 大学が関与するための業務書(ビジネスケース)を構築する(セクション4.3)
- SDGsへの大学のコミットメント(セクション4.4)
- SDGs間の相互リンクの管理(セクション4.5)
- SDGsに関する報告(セクション4.6)

これらのツールの多くは、セクション3で説明した複数のステップに役立ちます。含まれる情報は、幅広い大学のコンテキストに適用されることを意図しており、大学は独自のコンテキストおよびニーズに合わせてツールをカスタマイズできます。

4.1 SDGsへの大学の貢献をマッピングする

このセクションでは、大学がその研究、教育および運営活動を通じて最良のアプローチを選択し、設計するために、いくつかの考慮すべき事項を通じて、SDGsに貢献する方法を特定し、「マップする」ためのさまざまなアプローチを紹介します。

マッピングは、進行中の実装と報告だけでなく、SDGsに関する大学の議論を開始する上で非常に貴重な練習となり得えます。例えば次のように使うことができます。

- 主要なステークホルダーを特定し、既に達成されていることのデータベースを保つ方法として、SDGsへの貢献に携わっている主要な人や部門を見出す
- 大学全体で共有される目的分野と、学内のコラボレーションと外部パートナーシップの機会を見出す
- 大学の取り組みの業務書を構築し、将来の活動の機会を見出すための基礎として、大学の活動における強みとギャップを見出す
- SDGsに関するスタッフと学生の能力を育成し、構築する
- SDGsへの大学の貢献を、報告、伝達、広報するための情報を収集する
- SDGsにおける専門知識の国や地域でのイメージを形成し、国や地域でのギャップを見出す

このセクションの情報やアドバイスは、各大学でSDGsマッピングをすでに実施している人々との相談に基づいています。

大学は大規模かつ複雑な機関であり、さまざまな方法でSDGsに貢献することができるため、マッピングは大きな事業となりえます。プロセスを確実に管理するための鍵は、マッピングの目的と結果が明確にされ、それに応じてアプローチとデータソースを選択することです。したがって、マッピングの実施はそれぞれ異って見える可能性があります。また、さまざまな種類の寄与を一度にまとめようとするよりもむしろ、それらをマッピングするためには漸進的なアプローチをとることも有用かもしれません。

マッピングの主なタイプのアプローチは次のとおりです。

- **デスクトップ評価**:このアプローチには、データソースのデスクトップレビューと、SDGsに関する活動のマニュアル評価と割り当てが含まれる。技術的にもロジスティック的にも、これは最も簡単なアプローチである。しかし、大きな労働力が必要なプロセスなので、教員レベルの研究力や大学の目標など、ハイレベルな情報による小さなデータセットに適する。
- **自己評価**:このアプローチは、どのSDGsが自身の活動と一致しているかを自己評価するように依頼するもの。これには、今の時点で活動に最も精通している人々に関与してもらい、SDGsの理解を深められるという利点がある。しかし、人々の反応を確実にするためには、要求の設計とフォローアップの両方にかかなりの努力が必要となるかもしれない。このため、このアプローチは、少数の重要な人材(教員の研究コーディネーターなど)、ハイレベルによるサポートと既存の関係がある場合に効果的である。また、他のアプローチによって行われたマッピングを検証するための良い方法である。
- **キーワード検索**:このアプローチでは、SDGsに関連したのキーワードを使用して、論文業績一覧や講義一覧などの活動関連のデータを検索する。このアプローチでは、適切なキーワードを特定し、適切な種類のデータにアクセスし、出て来る結果が合理的であるかどうかをテストするために、セットアップに時間がかかり、また優れたソフトウェアを見つけるために時間がかかることがある。しかし、いったんセットアップされると、ある程度自動化することができ、結果を定期的に更新したり、SDGsの進行状況を追跡したりできるという大きな利点がある。

マッピングの基礎として使用できる「データソース」の例には、次のものがあります。

- 研究:研究戦略、フラッグシップ・イニシアチブ、研究者、プロジェクト/助成金、出版物、研究優秀賞ランキング
- 教育:大学院および学部のコース/ユニット、コースコーディネーター、学生のクラブ、および社会の利益
- 運営:大学の戦略、政策、目的、イニシアチブ、運営分野
- 報告:大学が現在報告している指標

次は、開始のための有用な資料となるでしょう:

- *Practical approaches to mapping university contributions to the SDGs* (Webinar) by SDSN Australia/Pacific and ACTS (2017): youtu.be/PbET71egLzw.
- *Compiled list of SDGs keywords* (spreadsheet) by Monash University and SDSN Australia/Pacific (2017): ap-unsdsn.org/wp-content/uploads/2017/04/Compiled-Keywords-for-SDGs-Mapping_Final_17-05-10.xlsx.

4.2 ステークホルダーを巻き込むワークショップの運営

SDGsは、すべての学部と大学活動のすべての分野を横断し、内外の関係者との新たなパートナーシップを構築する機会となり得えます。よく設計された大学間ワークショップは、大学がSDGsにどのように取り組むことができるかを議論する絶好の機会であり、参加者全員にとって非常に有益で活気のある経験となります。

提案されたワークショップの概要はボックス2にあります。実際の構造と内容は、オーディエンス、SDGsへの慣れ、ワークショップの正確な目的に合わせてカスタマイズする必要があります。

Box 2: 大学間SDGsワークショップのテンプレート

可能性のある目的

- SDGsの基本的な理解を構築する
- 重要人物にSDGsに関与してもらい、先導してもらう
- SDGsとの大学の関与の強み、ギャップ、優先順位、機会を見つけ、それらを行動に移す計画を立てる
- 大学のさまざまな分野で働く人々のためのつながりと共通の目的を作る
- 半日～1日

参加者

- 大学のリーダー、大学の重要な持続可能な発展リーダー、外部関係、各教員および運営部門の代表者、学生担当者(関連するクラブや社会など)、主要な外部ステークホルダー

プレゼンテーション(前半)

- SDGsとは何ですか？SDGsはどのように世界に対応していますか？
- SDGsの目的はどのように行動に移すことができますか？
- SDGsの活用方法(地域内、外部ステークホルダー、他の大学など)の興味深い関連例
- 大学のSDGsの機会に関する様々なステークホルダーからの短期の反響

ディスカッションの質問/ブレイクアウトグループ(後半)

- 私はSDGsとどう関係していますか？私はそれらに貢献するために何がどのようにできますか？
- 現在の大学の研究成果は、SDGsとどのように関連していますか、どのSDGsに貢献していますか？
- 私たちの強みは何ですか、ギャップとチャンスは何ですか？これらは大学の優先順位や価値観とどのように一致していますか？
- SDGsフレームワークを使用して、現在行っていることを改善し、どのように紹介することができますか？
- 大学内の共通の関心分野は何ですか？これをコラボレーションの基礎として使用できますか？
- 構造上の障壁/課題は何ですか？より多くの行動を促進するためには何を变える必要がありますか？
- 機会を実現するためには何が必要ですか？次のステップは何ですか？

成果

- ワークショップレポート
- 大学の行動計画
- 大学全体とのコミュニケーション

コツ

- 内容や活動が、大学の背景や地域に関係なく、すべての参加者にとって有意義であることを確認する。たとえば、ディスカッションの質問がすべての参加者の視点から理解できるようにする
- ディスカッションを可能にするプレゼンテーションとアクティビティの組み合わせを使用する

4.3 大学の関与のための業務企画書(ビジネスケース)構築

大学のリーダーと適切に話し合うための業務企画書(ビジネスケース)が必要な場合があります。このガイドは、SDGsがなぜ大学にとって重要であるのか、大学がどのようにそれらに取り組むことができるのかを概説することによって、ビジネスケースの準備を支援し、SDGsが自らの活動とどのように関連しているかを大学が見極めるためのツールを提供するのを支援するように設計されています。

ボックス3は、SDGsにおける大学の関与のビジネスケースがどのように見えるかについてのテンプレート概要を提供します。

Box 3 : 大学全体のSDGs取り組みの業務企画書 (ビジネスケース) 概要

1. SDGsとは何か(セクション1.1)
2. SDGsのグローバルな重要性と他のセクターがどのように活用しているか(セクション1.1)
3. SDGsのリーダーシップの必要性を含む大学の利益(セクション1.2)
4. SDGsに貢献するために大学が既に行っている重要な事柄のいくつか(セクション4.1)
5. 大学の持つ機会と、SDGsを用いて戦略目標をどのように活用できるか(セクション1.2)
6. 他の大学が行っていること(事例研究とウェブ検索)
7. 大学がSDGs(例えば、セクション3およびセクション4.6)に従事している場合、大学が履行する必要がある可能性のある期待と義務。
8. いくつかの潜在的な障壁に対処する(セクション4.2から収集)
9. 次のステップへの提言 - 例えば、より多くの大学間ワークショップ(セクション4.2)の実施と「SDGsへの大学のコミットメント」への署名(セクション4.4)

4.4 SDGsへの大学のコミットメント

「SDGsへの大学のコミットメント」(Box 4)は、大学学長に署名を依頼するための簡単な声明で、SDGsの研究、教育、運営を通じてSDGsを支援し、促進する意思を表明するとともに、目標のサポートを目的とします。コミットメントは、SDSNオーストラリア/パシフィックが大学のリーダーシップを発揮し、セクターがSDGsに貢献できる重要な方法を強調するために開始されました。

コミットメントは、義務的または法的義務を負うことなく、厄介でも規律的でもないように設計されているため、SDGsへの取り組みに大学の上級指導者を迎え、学内の対話を開始するためのツールとしても使用できます。コミットメントの実施をどのように解釈するのかは、各大学に任されます。このガイドは、大学に対してこの作業を手助けするために準備されました。

この出版物の時点では、オーストラリア/太平洋地域の9つの主要大学、つまりジェームズクック大学、アデレード大学、メルボルン大学、モナッシュ大学、シドニー大学、RMIT大学、西シドニー大学、ディーキン大学、ビクトリア大学ウェリントンなどがすでに署名しています。

コミットメントに署名することに興味のある大学は、SDSN Australia / Pacificに連絡するように招待されます。

¹ For the latest list of signatories, see ap-unsdsn.org/regional-initiatives/SDGs/university-commitment.

Box 4: 「SDGsへの大学のコミットメント」

17の持続可能な開発目標(SDGs)とそれに関連する169の目標は、2015年9月に国連のすべての国によって合意され、2030年までの開発優先事項のグローバルな枠組みを共有している。環境を保護し、気候変動に対処し、良好なガバナンスと平和と安全を奨励している。

大学は、これらの重要な地球規模の課題に対処し、持続可能な開発目標を達成する上で重要な役割を果たすであろう。大学は、次世代の指導者、革新者、思索家が、世界が直面している世界の課題と、これらの課題に対応するために立ち上がる役割を理解するために、教育を通じて責任を持っている。研究リーダーの研究と訓練を通じて、大学は地球規模の問題に対する持続可能な社会的、経済的、環境的、技術的解決策を見つける最前線に立っている。そして、独自の運営を通じて、大学はイノベーションを先導することができ、他のセクターやビジネスの例を挙げることができる。

すべての大学が持続可能な開発目標を達成する上で役割を果たすことは、世界の未来にとって重要である。

したがって、私たち、署名した大学は:

- 世界が直面する巨大な社会的、経済的、環境的課題を認識する
- 将来の発展は、社会的、経済的、環境的に持続可能な方法で行われなければならないことを認識している
- 持続可能な発展目標が2030年までに持続可能な発展の達成のためのアジェンダを達成することを認識している
- 教育、研究、運営を通じて持続可能な未来を達成するために大学が果たしうる極めて重要な役割を強調する

そして、私たちすべては以下のことに同意する:

- ・持続可能な開発目標の原則を支持し促進する
- ・持続可能な開発の課題への解決策を提供する研究を行う
- ・学生が持続可能な発展を促進するために必要な知識と技術を身につけるための教育機会を提供する
- ・私たちのキャンパスと主要プログラムが環境的に持続可能で社会的に包括的であることを確保することによって持続可能な開発目標の達成に貢献する
- ・持続可能な開発目標を支援するための活動について報告する

4.5 相互リンクのマネージ

SDGsアジェンダは、SDGs間の相互依存性の重要性を明確に表現しています。それは、SDGsが社会的、環境的および経済的次元間の相互リンクを考慮してバランスのとれた方法で対処されるべき不可分かつ統合された全体としてみなされることを求めています[38]。

ネガティブな相互リンク(またはトレードオフ)を特定することは、ある領域の進捗が他の領域の進展を妨げる予期しない結果を招かないようにするために重要です。一方、積極的な相互リンク(またはシナジー)は、複数の領域を一度に扱う際に役立ちます。相互リンクを特定するプロセスは、学問分野とセクター間のサイロを橋渡しする際にも重要です[39,40]。

SDGs間の相互リンクの分析は、次のように多くの点で大学に有用でありえます：

- 大学が、政策立案者に対して、SDGs達成のための最善の政策を見つけようとする際に不可欠な支援を提供できる重要な研究領域である(セクション2.2)
- 分野間の主要なつながりを特定し、トピックを多くの視点から調査するインパクトのある学際的な研究プロジェクトを開始するのに役立つ(セクション2.2)
- システム思考、先導するための能力、統合された問題解決(セクション2.1)など、SDGs教育の主要な能力の大部分の中心概念である
- 教育の幅広い恩恵を測定し、他の行動を通じて強化できる方法を特定するのに役立つ(セクション2.1)
- 業務における特定のSDGsを導入することによる潜在的なトレードオフとコベネフィットを特定するのに役立ち、最も有益なメリットを考えて優先順位を決めるのに役立つ(セクション2.3)
- 主要な大学プロジェクト(研究や運営プロジェクトを含む)の広範な/下流の共同便益を特定し、拡大し、潜在的な悪影響を評価し緩和するのに役立つ
- 大学のさまざまな分野、特に研究、教育、運営などを「生きている研究室」のコンセプトを通じてつなげるのに役立つ

相互関連の認識と管理のために、分野、学部または組織の領域にわたって作業をすることは困難です。なぜなら、システムはサイロ化され、より分野ごとに仕事しているため、時間、専門知識、お金の面で追加的な必要が生じるからです。しかし、科学と政策のコミュニティで、このプロセスを支援するための実践的な知識と指導を開発するために、かなりの努力が払われています。ボックス5は、大学がこのプロセスを実践するのに役立ついくつかの有用なツールと例へのリンクを提供します。

4.6 SDGsへの貢献をレポートする

セクション3、ステップ5で説明したように、レポートはアカウンタビリティと評価の重要な尺度であり、SDGsに関わる大学にとって大きなチャンスです。特に、SDGsは、大学の報告書を整理して統合する絶好の機会を提供し、大学が国際および地域の幸福のために何をするかの影響と重要性を示し、実行することができます。

SDGsのレポートは比較的新しいものであり、まだ積極的に開発されている途中の分野です。特に、組織がSDGsへの影響をどのように報告できるかについては、包括的かつ一般的に受け入れられているガイドラインはありません。このセクションでは、既存のSDGs報告活動への背景と、大学がSDGs貢献のレポートを検討する方法についてのいくつかのアイデアを提供します。

世界のSDGsアジェンダには、国連の国別データを収集する232の公式指標が含まれています。しかし、報告は任意であり、各国政府は何を報告し、どのように選ぶことができます。報告国の義務は、2016年から2030年の間に少なくとも2回、持続可能な開発に関する国連ハイレベル政治フォーラムへのSDGsの実施の進捗状況の報告することだけですⁱⁱ。

ⁱ unstats.un.org/SDGs.

ⁱⁱ sustainabledevelopment.un.org/hlpf.

Box 5: 大学の相互リンクを管理するためのいくつかのリソースと例

- Nilsson et al.[41]は、SDGs間の相互リンクについて説明し、それらの強さと方向を評価するための簡単なスケールを説明しています。
- ICSU [42]は、目標を達成するための科学政策対話の基礎として、食品/農業(SDG 2)、健康(SDG 3)、エネルギー(SDG 7)、海洋(SDG 14)とその他すべての目標間の主要な正と負の相互作用を特定し評価しています。
- Hall et al [43]は、クイーンズランド大学の多分野の研究者チームとワークショップを行って、SDGsがどのように相互に影響を及ぼしているかをマップし、特にオーストラリアとそれ以降の水、衛生衛生(SDG 6)に重点を置きました。結果の影響図は、実装オプションを開発するための戦略的基盤を提供しています。
- Malekpour et al [44]は、大学のキャンパス内の食糧(SDG 2)、エネルギー(SDG 7)、水(SDG 6)との関係を探るために、モナッシュ大学でクロス・キャンパス・ワークショップを開催し、キャンパス・ベースのプロジェクト新しい研究を刺激し、教育機会を提供し、キャンパスの持続可能性に貢献しています。
- 「ゴールドスタンダード」ⁱは、グローバル目標のためのゴールドスタンダードを設定し、健康、ジェンダー平等、およびコミュニティのクリーンウォーターへのアクセスに関する温室効果ガス排出を削減するプロジェクトの影響とコベネフィットを測定するツールを開発し実施しています。
- SDSN Australia / Pacific [45]は、オーストラリアに関連する重要なSDGsインターリンクに関するマルチセクターの議論を導き、インターリンクを捕捉する潜在的なターゲット/インディケータを特定するためのSDGs統合のためのフレームワークを開発しました。
- シドニー工科大学の持続可能な未来研究所は、SDGsインターリンクの複雑さに取り組むための概念的な理解と実践的なツールを提供する開発実践者のためのシステム思考マスタークラスを実行しましたⁱⁱ。

他のセクターによる報告は自主的ですが、SDGsに関する報告書を年次報告書またはサステナビリティ報告書に組み入れる機関が増えています。何を報告すべきかについての初期のガイダンスは、SDGs Compass [46]と都市におけるSDGs入門[47]によって提供されています。SDGsコンパスは、SDGsとGRI (Global Reporting Initiative)ⁱⁱⁱ指標を結びつける情報を提供しており、より包括的なガイダンスがGRIとUN Global Compact^{iv}によって準備されています。これらのツールの中には、大学の報告には関連性がありますが、まだ大学に特有のものはありません。

既存のガイダンスのいずれも、組織が莫大な労力を払ってまで、169のSDGs下位目標のすべて、または17目標のそれぞれに対して、報告することを推奨するものではないことは注目に値します。

義務的な報告要件と大学に特有の報告ガイドラインがない場合、大学は自らの価値、優先事項、既存の報告活動に合ったアプローチを調整することができます。これをどうやって進めるかについていくつかの提案があります:

- 大学のSDGsへの関与を実証し、毎年報告するために、少なくとも指標または指標を特定または開発する。これらは、セクション3、特にセクション3、ステップ5で説明されているSDGs参加プロセスの成果に基づいてできる可能性がある。次のものを含むことができるだろう。SDGs貢献をマッピングした結果、大学イニシアチブとその影響に関するストーリー、開発された新しいリソース(計測ツール、技術、プラクティス)

ⁱ www.goldstandard.org/project-developers/develop-project.

ⁱⁱ www.uts.edu.au/research-and-teaching/our-research/institute-sustainable-futures/news/systems-thinking-impact.

ⁱⁱⁱ SDGcompass.org/business-indicators.

^{iv} www.globalreporting.org/information/SDGs/Pages/Reporting-on-the-SDGs.aspx.

- 既存の報告内容を基礎とする。SDGsに関連する多くの活動は、大学の年次報告書、持続可能性報告、PRME、国連グローバル・コンパクト、グローバル・レポーティング・イニシアチブ、LiFE指数などの自主的な報告組織への報告です。これらの報告書をSDGsに統合することは、世界的な幸福への大学の影響に関する、一つの全体的な物語を開発する機会でもある。
- 「SDGsウォッシング」を避ける。「グリーンウォッシング」とは、製品、組織、政策、またはプロジェクトが、環境に優しいという印象を与えるために情報が利用されていることを意味する。SDGsも同様に使えてしまふ。報告されている情報が実体的かつ信頼できるものであること、そしてSDGsが大学が持続可能な発展に貢献しているという認識を促進するためだけには使用されていないことを確認することが重要である。大学は、パフォーマンスが強い他の重要な指標を無視して、大学がうまくいくSDGs指標だけを報告すれば、SDGsが業績を「ウォッシング＝洗い流して」いるという印象を与えるかもしれない。
- 報告を通じてどのような目的に到達しようとしているのかを明確にし、あなたにとって何が効果的かを見つけることが重要です。たとえば、幅広い聴衆を巻き込むということが目的だったとすると、ストーリー・テリング・アプローチが最も効果的かもしれない。あるいは、事実や数字を報告したいなら、特定された指標に対する進捗の表がそれを満たすかもしれない。どのような場合でも、レポート作成のためのレポートを作成していないことを確認すること。時間ばかりがかかり、結果や利益がほとんどないためである。

下記はすでに出されているいくつかの例です。

- A compilation of approaches: Giselle Weybrecht 2017, 'Reporting on the SDGs – A visual tour of different approaches', *PRiMEtime Blog*, (10 & 17 July) (primetime.unprme.org/2017/07/10/reporting-on-the-SDGs-a-visual-tour-of-different-approaches-part-1-of-2).
- 大学の年次報告のいくつか: RMIT University, *Sustainability Annual Report 2016* (www1.rmit.edu.au/browse;ID=7pzymijz5s6y); Deakin University, *Sustainability Progress Report 2016* (www.deakin.edu.au/students/your-campus/organisational-sustainability); Victoria University of Wellington, *Sustainability Report 2016*; The University of Bologna, *Report on U.N. Sustainable Development Goals 2016* (www.unibo.it/en/university/who-we-are/report-on-un-sdgs).

SDGsに関するレポートの在り方は現在積極的な開発のテーマであることから、このガイドの将来の版は、大学が引き出すことができるより包括的なガイドラインとツールを述べることができるでしょう。

出典

1. Global Reporting Institute (GRI), United Nations Global Compact (UNGC) & World Business Council for Sustainable Development (WBCSD) 2015, *The SDGs Compass: The guide for business action on the SDGs*, [SDGcompass.org/wp-content/uploads/2015/12/019104 SDGs Compass Guide 2015.pdf](https://sdgcompass.org/wp-content/uploads/2015/12/019104_SDGs_Compass_Guide_2015.pdf).
2. Kanuri, C, Revi, A, Espey, J & Kuhle, H 2016, *Getting started with the SDGs in Cities: A guide for stakeholders*, Sustainable Development Solutions Network, unsdsn.org/wp-content/uploads/2016/07/9.1.8.-Cities-SDGs-Guide.pdf.
3. Sustainable Development Solutions Network (SDSN) 2015, *Getting started with the SDGs: A guide for stakeholders*, SDSN, New York, [SDGs.guide](https://sdgs.guide).
4. United Nations (UN) General Assembly 2015, *Transforming our world: The 2030 Agenda for Sustainable Development*, A/RES/70/1 (21 October), viewed 3 August 2017, www.refworld.org/docid/57b6e3e44.html.
5. Nilsson, M, Griggs, D & Visbeck, M 2016, 'Map the interactions between Sustainable Development Goals', *Nature*, vol. 534, pp. 320–322.
6. Crow, M 2014, What is the role of universities in global development?, viewed 30 April 2017, blogs.worldbank.org/education/what-role-universities-global-development.
7. Boulton, G 2009, 'What are universities for?', *University World News*, issue: 69 (29 March), viewed 3 August 2017, www.universityworldnews.com/article.php?story=20090326200944986.
8. Deloitte Access Economics 2015, *The importance of universities to Australia's prosperity*, Deloitte Access Economics Pty Ltd, Canberra, www.universitiesaustralia.edu.au/news/commissioned-studies/The-Importance-of-universities-to-Australia-s-prosperity#.WQU9b3o2sYs.
9. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO) 2014, *Sustainable development begins with education*, UNESCO, Paris, unesdoc.unesco.org/images/0023/002305/230508e.pdf.
10. UNESCO 2016, 'Education for people and planet: Creating sustainable futures for all', *New Global Education Monitoring Report Series*, UNESCO, Paris, en.unesco.org/gem-report/report/2016/education-people-and-planet-creating-sustainable-futures-all.
11. UNESCO 2014.
12. UNESCO 2016.
13. UNESCO 2017, *Education for Sustainable Development Goals: Learning objectives*, UNESCO, Paris, unesdoc.unesco.org/images/0024/002474/247444e.pdf.
14. UNESCO 2016.
15. UNESCO 2017.
16. Scientific Advisory Board of the United Nations (UN) Secretary-General 2016, 'Science for sustainable development' *Policy Brief by the Scientific Advisory Board of the UN Secretary-General*, UNESCO, unesdoc.unesco.org/images/0024/002461/246105e.pdf.
17. Nilsson, M 2016, 'How science should feed into the 2030 Agenda', *SciDev.Net*, (5 April), viewed 3 August 2017, www.scidev.net/global/SDGs/opinion/science-SDGs-2030-agenda-sustainability.html.
18. ICSU & ISSC 2015, *Review of the Sustainable Development Goals: The science perspective*, International Council for Science (ICSU), Paris, www.icsu.org/publications/reports-and-reviews/review-of-targets-for-the-sustainable-development-goals-the-science-perspective-2015.
19. Schmalzbauer, B & Visbeck, M (eds) 2016, 'The contribution of science in implementing the Sustainable Development Goals', German Committee Future Earth, Stuttgart/Kiel, futureearth.org/sites/default/files/2016_report_contribution_science_SDGs.pdf.

20. Perkins, NI 2016, Science plays crucial role in SDGs success, *SciDev.Net*, (21 March), viewed 3 August 2017, www.scidev.net/global/SDGs/scidev-net-at-large/science-crucial-role-SDGs-success.html.
21. Scientific Advisory Board of the UN Secretary-General 2016.
22. Elsevier 2015, *Sustainability science in a global landscape*, www.elsevier.com/research-intelligence/resource-library/sustainability-2015, (p. 61).
23. Nilsson, M, Griggs, D & Visbeck, M 2016.
24. International Council for Science (ICSU) 2017, *A guide to SDGs interactions: From science to implementation* [D.J. Griggs, M. Nilsson, A. Stevance, D. McCollum (eds)]. ICSU, Paris, www.icsu.org/cms/2017/05/SDGs-Guide-to-Interactions.pdf.
25. Lee, H & Pollitzer, E 2016, *The role of gender-based innovations for the UN Sustainable Development Goals: Toward 2030: Better science and technology for all*, Korea Center for Women in Science, Engineering and Technology (WISET), Seoul.
26. Scientific Advisory Board of the UN Secretary-General 2016.
27. Lubchenco, J, Barner, AK, Cerny-Chipman, EB & Reimer, JN 2015, 'Sustainability rooted in science', *Nature Geoscience*, vol. 8, pp. 741–745.
28. Elsevier 2015.
29. Schmalzbauer, B & Visbeck, M (eds) 2016.
30. Lubchenco, J, Barner, AK, Cerny-Chipman, EB & Reimer, JN 2015.
31. Future Earth 2014, *Future Earth 2025 vision*, International Council for Science (ICSU), Paris, www.futureearth.org/sites/default/files/future-earth_10-year-vision_web.pdf.
32. Jantsch, E 1972, 'Inter- and transdisciplinary university: A systems approach to education and innovation', *Higher Education*, vol. 1, no. 1, pp. 7–37.
33. Elsevier 2015.
34. Lee, H & Pollitzer, E 2016.
35. GRI, UNGC & WBCSD 2015.
36. Nilsson, M 2016.
37. UN General Assembly 2015, (Para 52–53).
38. UN General Assembly 2015.
39. Nilsson, M, Griggs, D & Visbeck, M 2016.
40. ICSU 2017.
41. Nilsson, M, Griggs, D & Visbeck, M 2016.
42. ICSU 2017.
43. Hall, N, Richards, R, Barrington, D, Ross, H, Reid, S, Head, B, Jagals, P, Dean, A, Hussey, K, Abal, E, Ali, S, Bouilly, L & Willis, J 2016, *Achieving the UN Sustainable Development Goals for water and beyond*, Global Change Institute, The University of Queensland, Brisbane, gci.uq.edu.au/achieving-un-sustainable-development-goals-water-and-beyond.
44. Malekpour, S, Caball, R, Brown, RR, Georges, N & Jasieniak, J 2017 *Food-energy-water nexus: Ideas for Monash Clayton Campus*, Monash University, Melbourne, Australia.
45. Watson, R, Thwaites, J, Griggs, D, Kestin, T & McGrath K 2014, *Sustainable development goals and targets for Australia: An interim proposal*, Monash Sustainability Institute Report 14/3, ap-unsdsn.org/wp-content/uploads/2013/10/SDGs-for-Australia_Interim-Report.pdf.
46. GRI, UNGC & WBCSD 2015.
47. Kanuri, C, Revi, A, Espey, J and Kuhle, H 2016.

ANNEX A: SDGsに含まれる課題の例

Goal	Key issues and challenges
 <p>1 NO POVERTY</p>	<p>目標1は、どこにおいても、すべての形の貧困の終焉を求めます。この目的を達成するためには、貧困層と脆弱な人々を対象とした社会保障プログラムと援助を拡大・改善し、また、対策制度が十分でない開発途上国の災害リスク軽減と緩和の取り組みを強化しなければなりません。</p>
 <p>2 ZERO HUNGER</p>	<p>目標2は、飢餓を終わらせ、食糧安全保障を達成し、栄養を改善し、持続可能な農業を促進することを目指しています。この目標を達成するには、安全で十分に栄養価の高い食品へのアクセスを確保する必要があります。これには、柔軟な農業の実行と、持続可能な食糧生産システムが必要です。食糧アクセスに関するデータの増加と改善は、目標2の進捗状況を追跡し、食糧不安の介入を導くのに役立ちます。</p>
 <p>3 GOOD HEALTH AND WELL-BEING</p>	<p>目標3は、安全、手頃で効果的な保健医療へのアクセスを含んだ、すべての年齢層の人々の健康と福祉を確保することを目指しています。この目標を達成するために、性と生殖に関する健康サービス、感染症予防、他の公衆衛生問題の治療と予防への普遍的アクセスが必要です。</p>
 <p>4 QUALITY EDUCATION</p>	<p>目標4は、質の高い教育に、包括的かつ公平なアクセスを確保することを目的としています。この目標は、人間がよい能力を持ち、社会に貢献するために必要な、知識、技能、価値の獲得を促しています。この目標の目指すところは、青少年の識字と計算能力の普遍的な確保、途上国で利用可能な奨学金の世界規模での拡大、すべての人に手頃で質の高い技術、職業、および高等教育への平等なアクセスを確保することです。</p>
 <p>5 GENDER EQUALITY</p>	<p>ジェンダー平等の達成と、女性と女兒の能力を最大限に発揮するための努力が、目標5の鍵です。この目標を達成するには、女性に対するあらゆる形態の差別、暴力、有害な慣習を排除すること、そして、性と生殖の健康と権利の保障が必要です。この目標に向けた取り組みは、政治、公共、経済的生活におけるジェンダー平等の達成を意味します。</p>
 <p>6 CLEAN WATER AND SANITATION</p>	<p>目標6は、飲料水の確保、清潔、衛生を達成するだけでなく、水資源の質と持続可能性の改善を確実にすることを目指しています。目標6には、効果的かつ統合された水資源管理と、すべての人のための衛生設備の改善が含まれます。これらの成果を達成するためには、国際協力と、地域社会の関与を拡大する必要があります。</p>
 <p>7 AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY</p>	<p>目標7は、すべての人に、手頃で信頼できる持続可能で近代的なエネルギーへのアクセスを確保することを目指しています。この目標を達成するためには、国際協力と、クリーンエネルギーのインフラと技術の拡大の両面が必要であり、電気、クリーン燃料、調理技術へのアクセスの確保、再生可能エネルギー利用の拡大が必要です。</p>
 <p>8 DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH</p>	<p>経済成長と雇用は、金融サービスへの公平なアクセスとともに、目標8の達成に不可欠な経済安全保障の達成にとって重要です。この目的を達成するためには、移住労働者を含むすべての労働者、特に女性移民、不安定な雇用をされている人々に対して、国家と産業は労働権を保護し、安全で守られた労働環境の整備を促進しなければなりません。</p>
 <p>9 INDUSTRY, INNOVATION AND INFRASTRUCTURE</p>	<p>目標9は、インフラ整備、工業化、革新を含みます。この目標を達成するためには、品質の高い、信頼性、包括的、持続可能で弾力性のあるインフラストラクチャーを開発し、確保する必要があります。これには、研究開発への投資によって促進される、新しい持続可能な産業の革新と創造が含まれます。</p>

Goal**Key issues and challenges**



目標10を通じて不平等を減らすという呼びかけは普遍的であり、すべての国の間の不平等が強調されています。性別、年齢、障がい、起源、階級、民族、人種、宗教、および表現に基づく困難だけでなく、収入と機会の不平等の背後にある構造的要因と困難の軽減は、この目標を達成するために不可欠です。これに対する鍵は、内部政策の制定と、国際・地域協力のためのモニタリングと指針の開発および政治的意思の強化でしょう。



目標11は、都市や、人間のその他の居住地を包括的、安全、弾力的、持続可能なものにし、革新と雇用を刺激することを目指しています。都市化が社会を変え、変革するので、SDG達成の鍵は、革新、変革と経済発展のための一貫した都市レベル戦略と、社会の持続可能な発展を推進することです。



目標12は、持続可能な消費と生産パターンの推進にフォーカスしています。この目標の実現においては、生活の質と消費の不平等に関する他の目標を達成しながら、生産と消費を減らすという壁を越えなければなりません。この目標を達成するためには、天然資源の持続可能な管理、食品廃棄物の削減、リサイクル、再利用、防止および削減を行う習慣の向上に関する革新が重要です。



目標13は、気候変動とその影響に対して緊急行動を求めるだけでなく、気候関連の危機や自然災害に対して回復力を構築することも求めています。この目標は、気候変動に関連した適応能力と自然災害とハザードへの回復力を強化するための集団的責任を表しています。この目標の達成には、気候変動対策の国家計画、戦略、政策への組み込みが必要であるだけでなく、気候変動に対する緩和、影響軽減、早期警戒および適応に関する意識向上、教育、制度的および人的能力の改善が必要です。



目標14は、持続可能な発展のために、海洋、海洋および海洋資源の保全と持続可能な利用を促進することを目指しています。この目標は、沿岸地域と海洋の価値と重要性についての政府、産業界および地域社会の認識を必要とします。この目標を達成するには、研究能力、科学知識、海洋技術の共有を向上させ、海洋の健康さを向上させるだけでなく、開発途上国において海洋生物多様性の役割を向上させることが必要である。



目標15は、森林の持続的維持、劣化した土地の復元、そして、砂漠化、自然生息地の減少、生物多様性の損失を終わらせることに焦点を当てています。この目標にとって重要なのは、生物多様性と生態系の価値を、地方や国の計画、貧困減少のための計画や、開発プロセスに統合することです。



目標16は、人権、法の支配、優れた統治のあらゆるレベルでの尊重と、透明性があり、効果的で責任ある機関に基づいて、平和的かつ包括的な社会を推進しようとしています。この目標を達成するためには、普遍性が重要です。コンテキストに特異的な措置と、行動する動機付けを可能にする、世界レベルの指標が開発される必要があります。正義と情報への普遍的なアクセスも保証されなければなりません。



目標17は、実施手段の強化と、持続可能な開発のためのグローバルなパートナーシップの活性化を目指しています。この目標を達成するための鍵は、普遍的なパートナーシップ、専門知識を共有し動員するための利害関係者の協力関係、財源、各国におけるSDG支援のための知識と技術です。

ANNEX B: ケーススタディ

B.1 「TAKE ONE STEP」を通じた学生の巻き込み (MONASH UNIVERSITY)

学生にSDGとの交流を促す:これは大学レベルでの行動を動機づける鍵です。モナッシュ大学のMonash Sustainable Development Instituteが開発した「Take One Step」は、SDGのリーダーシップと行動を促すことを目的とした、学生のためのオンラインエンゲージメントプラットフォームです。

学生の競争力を刺激するようなインタラクティブなプラットフォームとして設計されていて、参加学生は、SDGにインスピレーションを得て変化を遂げ、進捗状況を文書化し、クイズを受け取り、学習コンテンツを読むことを求められます。学生は、食品廃棄物の削減、社会意識の高い消費者への参加、地域社会でのボランティアなど、さまざまな課題に取り組んでいます。他の人々の挑戦も分かち合い、フォローしていく能力を通じた社会的相互作用。学生グループとスタッフを動員してプロジェクトを支え、またプラットフォームにゲーム的な要素を組み込むことが、成功の鍵を握っています。

「Take One Step」が成長し、さまざまな国の学生が交流し、アイデアを共有し、課題に取り組むことが可能になることが想定されています。Monashは、教育ビデオコンテンツ、コラボレーションツール、さらに他の大学や組織と共有できるゲーミングによってカスタマイズ可能な、改善されたサイトのプラットフォームを作成する予定です。詳細は www.takeonestep.com.au を参照してください。

B.2 SDGsのための持続可能な発展の博士号 (CURTIN UNIVERSITY)

SDGsに取り組むことにフォーカス研究は、SDGsによって示された課題と目標に取り組むために、国際社会によって必要とされています。Curtin Universityの「持続可能な発展の博士号(The Doctorate in Sustainable Development: DSD)」は、SDGsによって示された複雑な課題に実務者が対応できるように設計された専門博士号です。

Curtin大学の、SDGsにリンクした「持続可能な発展の博士号(DSD)」は、その種の中でも初めてのものです。最初の15人のDSD学生は、現場での実践的、個人的、専門的な経験を国内外の機関と結びつけています。DSDは、持続可能性に関する世界有数の専門家によって支援され、政府、援助機関、企業、および自主的な組織と積極的に提携しています。その中心的な仕事は、SDGsを達成するために必要な実践的な政策プロセスと成果を統合する方法を見つけることです。SDGs達成の障壁に対処することは、博士課程の基本的な部分になります。DSD開始時のいくつかの授業には、SDGsの単位、持続可能性のリーダーシップ、研究方法などが含まれます。詳細は www.sustainability.curtin.edu.au/ をご覧ください。

B.3 開発実践プログラム (JAMES COOK UNIVERSITY)

ジェームスクック大学(JCU)の「開発実践プログラムThe Development Practice Program」は、熱帯開発途上国の「Sentinel Landscapes」エリアのケーススタディを通じ、SDGs実現のための統合的なランドスケープアプローチを教育し、研究しています。このようなエリアは大学が、地元の学術、経営、市民社会、地域社会の組織と連携して、包括的な地域の状況をよりよく理解することに関与しています。その地域の状況では、SDGsを達成する必要があり、地元の利害関係者とSDGsを進めるオプションを包括的に探さなければなりません。

熱帯雨林や沿岸地域の持続可能な発展への特別な課題はSDG 9で示されています。JCUの「開発実践プログラム」は、これらの環境において貧困の緩和と環境の持続可能性を調和させるために必要なツールを学生に提供することを目指しています。

「開発実践プログラム」を通じて行われる研究は、SDGsに沿った意思決定につながる知識と分析を提供することを目的としています。大学は、JCUの持続可能な開発へのコミットメントを共有する熱帯開発途上国および市民団体の大学と長期的なパートナーシップを構築することを目指しています。JCUはまた、学生の構成を豊かにするとともに、持続可能な発展の科学を進めるための地元の能力を築くために、これらの国の大学院生を募集することを目指しています。

B4 SDGsについての学生リーダーシップフォーラム(MONASH UNIVERSITY)

SDGsへの学生の行動を促し、SDGsに対する学生の理解を向上させることは、SDGsを達成するために不可欠です。2016年10月、「モナッシュ大学 持続可能な開発研究所the Monash Sustainable Development Institute」は、SDGsに関するモナッシュ大学の学生の行動がよりよく認識され、相互につながりあわせられ、そして強められるにはどうしたらよいかを議論するために、学生リーダーと主要スタッフを集めて、「SDGsに関するモナッシュ学生リーダーシップフォーラム」を開催しました。

フォーラムの主な目的は以下のことでした:

- ・SDGに関連する学生の活動を組織することに関与するモナッシュ大学の主要人物と地域を結びつけること
- ・全員にSDGを紹介し、世界的な影響の例を提示すること
- ・現在Monash学生がSDGにどのように貢献しているかをマッピングすること
- ・2017年に向けた共通の関心分野と共同活動の可能性のある分野を特定すること
- ・学生の参加とSDGへの貢献への関心を高めるためのアイデアをブレインストーミングすること

参加者はこのイベントについて非常に積極的であり、他の学生との共通の関心を見つける経験を喜びました。多くの人が以前にはSDGのことを聞いていなかった、あるいは少ししか知らなかったため、このフォーラムは非常に有益でした。さまざまなフォローアップ活動の可能性が提案されました。これらの提案と熱意は、より多くのモナッシュ大学生がSDGsについて前向きに関与することを奨励するために生かされる予定です。

B5 SDG 1の教育 (THE UNIVERSITY OF SYDNEY)

2014年にシドニー大学は、大学の経営学修士課程に「貧困削減と収益性」という新しい研究ユニットを設置しました。このユニットは、貧困の調査と緩和における事業の役割を通じ、SDG1に関連します。しかし、このユニットは、SDG1と他のSDGsとの関係を議論することによってもコンテキスト化されます。このユニットは、ビジネスの目的を問うマクロアプローチをとり、SDGsが社会問題におけるビジネスの役割をどのように再定義するかを議論し、「共有価値の創造(CSV)」や「ベイス・オブ・ザ・ピラミッド(BOP)」などの関連学問理論を提示します。

このユニットは、ニューヨークの国連グローバル・コンパクト・リーダーサミットに出席して得た知識によって形成されました。学生からの経験談的なエビデンスと、進行中の公式な研究からの予備的な結果は、ユニットを受講した後の学生に価値とキャリアの志向における根本的な変化があることを示しています。ユニットを通じて達成された作業に基づいて、大学はSDGsとビジネスに関するMOOC / SPOC(大規模公開・小規模非公開のオンラインコース)を開発しました。「貧困削減と収益性」ユニットに関する短いビデオを次で見ることができます:
www.youtube.com/watch?v=N4HZN9Tr6dU またさらなる情報をここで得ることができます:
sydney.edu.au/news-opinion/news/2017/04/06/on-my-mind.html.

B6 SDGsによるカリキュラムのマッピング (VICTORIA UNIVERSITY OF WELLINGTON)

SDGに対応するカリキュラムを通じて、持続可能なソリューションを開発するためのスキルと専門知識を学生に持たせることは、大学がSDGの提供に貢献できる大きな方法です。ビクトリア大学ウェリントンには、持続可能な未来への貢献を導く組織体制としてSDGsを使用しています。この貢献の一環として、同大学の3000以上のコースカリキュラム内容をSDGsの視点で見直しました。

大学は、どの学部学科が講義として最大の既存の持続可能性コンテンツを持っているか、また、17の目標のうちどれがよりよく扱われ、どれがそうでないかを、確認したいと考えていました。あるコンサルタントは、同大学のオンラインの「講義ファインダー」からコンテンツを集めてくる自動プロセスを開発し、17の目標のそれぞれに特別に開発されたキーワードについて、その出現頻度を講義の説明から検索しました。

この知見はいま、SDGsを講義にどのように組み込むことができるか、講義でSDGsコンテンツを目立たせるプロセスを改善する方法についての議論を開始するために使用されています。このプロジェクトはまた、教育の中で持続可能性をコーディネートするための新たな選択肢を広範に検討することについても有意義であり、持続可能性に関する学術的専門家のネットワークを見出しています。同大学の持続可能性に関する成果の詳細については、www.victoria.ac.nz/about/governance/sustainability-office をご覧ください。

B.7 SDG6を実現するためのディスカッションペーパー (THE UNIVERSITY OF QUEENSLAND)

淡水は生存のために不可欠です。しかし、世界的には1/9の人が清潔な飲料水にアクセスできず、1/3の人には改善された衛生設備がありません。SDG 6は、すべての人々の水と衛生の可用性と持続可能な管理を確保することを目指しています。クイーンズランド大学は、2016年にSDGsに関する3つの関連した、SDG 6を特に重点的に取り上げた政策ディスカッション・ペーパーを発表しました。同大学研究者の多分野のグループと、同大学のグローバル変革機構によってまとめられたこの文書は、以下を行うことを目指します：

- SDGの実装を開始する方法を見出す
- SDG間の相互リンクを識別し理解する
- 地域協力とキャパシティビルディングの詳細な調査を行う(ターゲット6a)。

この文書は、SDGsに関する政策決定、業界の対応、市民社会の考えを知らせるために、非学術的セクターに広く配布されています。これらの文書は、現場でSDGが何を意味するのかを示していて、幅広い団体からの顕著な必要に対応しています。参照：gci.uq.edu.au/sustainable-water。

B.8 UTSディベロップメントネットワーク (THE UNIVERSITY OF TECHNOLOGY, SYDNEY)

SDGに取り組む際の大学にとっての1つの重要な課題は、教員間の協力を促進することにあります。2013年には、シドニー工科大学 (University of Technology, UTS) の「持続可能な未来のための研究所」が「開発の未来」開発部門会議を主催しました。会議の計画段階では、貧困と社会正義に関心を持つUTSのスタッフが探し出されました。このあと「UTS開発ネットワーク(開発、貧困緩和、社会正義に焦点を当てた実践のコミュニティ)」が形成されました。その目的は、協力を促進し、学習を交換し、UTSのさまざまな分野にわたる共同研究を開発することです。

「UTS開発ネットワーク」は、ジェンダー平等とSDGs、そしてエネルギーとSDGsという2つのフォーラムを開催しています。これらのフォーラムは、さまざまな学部の研究者が各自の仕事内容同士にリンクを張るのに役立つ場を提供しました。具体的な目標は、参加者と講演者に具体的な方向づけを提供しました。また、異なるSDGs同士の重なりは両方のフォーラムで強調され、明確にされました。

このようにSDGsのフレームワークを活用することで、UTS内の各領域がサイロ化される可能性があったところ、UTS開発ネットワークがUTS内の領域同士をつなぐことを実現しました。また、国際的なSDGsに向けた活動において、UTSの研究者にとっての共通の目的を明確にし、促進しました。

B.9 SDGsアイデアフォーラム (VICTORIA UNIVERSITY OF WELLINGTON)

SDGに関する学際的な協力は、17のSDGs間の解決策と相乗効果を見つけることに様々な視点をもたらすことができます。ビクトリア大学ウェリントン大学は、学部間の共同研究を促進する新しい研究の発展に向けて機会を提供しています。

2016年11月には、大学で「アイデア・フォーラム」が開催され、ビジネス、市民社会、および政府部門の招待客とともに、すべての学部のスタッフおよび大学院生57名が集まりました。新しい研究アイデアを生み出し、アイデアを研究プロポーザルに発展させるために複数の学際的チームを一緒に結成し、提案を学内資金応募のために提出しました。SDGsは、幅広くあらゆる分野に関連するパワーがあるために、「フォーラム」のコンテキストとして選ばれました。

このフォーラムは、「生物多様性都市へのコミュニティ参加」、「持続可能な食糧 法と政策」、「教育で気候変動に立ち向かう」などのテーマで、2017年に8つのプロジェクトが学内資金で実施に向かって支援されました。研究プロジェクト以外にも、「アイデア・フォーラム」は、大学人がそれまでに協働したりそれどころか会ったりしたこともなかった同僚との新たなつながりを作る絶好の機会を提供しました。

結果、SDGsを用いることは学術的なサイロを壊す上で非常に有用であることが証明されました。また、より焦点を当てた「アイデア・フォーラム」が2017年4月に開催されました。フォーラムに関する詳細は、www.victoria.ac.nz/about/strengths/sustainabilityをご覧ください。

B.10 SDGs研究ウェブサイト (THE UNIVERSITY OF WESTERN AUSTRALIA)

西オーストラリア大学(UWA)では、所属研究者が進める、地方、国内および国際的に実施されている重要かつ相互に関連した持続可能な開発研究をハイライトしたいというアイデアがありました。したがって、同大学は、研究活動をマッピングするための理想的な枠組みとして、SDGsを用いることとしました。このマッピングで、同大学は持続可能な開発研究活動のうち8つの主要分野、食料安全保障、人権、すべての人の健康、持続可能な都市、気候変動とエネルギー、健康な生態系、すべての知識と教育、ガバナンスを選びました。

これら8つの活動の領域は、研究リーダー、研究ニュース、プログラムとイニシアチブ、およびイベントをハイライトするウェブサイトの枠組みとなりました。このウェブサイトは、SDGsに関係する大学の活動の情報を、関連させハイライトするため、またコミュニケーションと交流を促進するものとしての理想的な媒体であると認識されました。このウェブサイトは外部および内部の訪問者のための同大学の持続可能性情報の仮想ハブになっています。選ばれた研究活動領域内の新興リーダーの話と共有しながら、ウェブサイトは拡大しています。このアプローチでは、大学の重要なSDGs関連研究を伝えることに、大学執行部が全面的に支援をしています。ウェブサイト：www.research.uwa.edu.au/sustainability-research-at-uwaをご覧ください。

B.11 「安全な家族」研究プロジェクト(MONASH UNIVERSITY)

現場の協力者と協力していく際に、大学はSDGsフレームワークを研究活動の調整、測定、説明の手段として用いることができます。モナッシュ大学は、「安全な家族」プロジェクトの実施状況を評価するための調査を実施しています。「安全な家族」プロジェクトは、ソロモン諸島で実施された最初の、長期的、集中的、地域的に開発されたコミュニティベースの暴力防止のプロジェクトです。現在、この研究で同大学と提携しているソロモン諸島におけるOxfamを含む、協力的なステークホルダーモデルで提供されています。

SDGs(特にSDG5、および暴力の蔓延をめぐる関連標的と指標)は、本研究のガイドと推進に使用されてきました。研究は次の質問に対して進められています。低所得国と中所得国におけるセクシュアルあるいは親密なパートナーの暴力を一次的に防止するためのエビデンスは、どのように構築することができるか。この疑問の中に、太平洋地域で紛争後の高い蔓延からのエビデンスを拡大する、暗黙の必要性が含まれています。

研究設計のプロセスで、SDGsのフレーミングは、チームが意図している結果に対して方法論が妥当であるかを確認するのを助けました。この研究の疑問は次の通りです：この研究は、ジェンダーに基づく暴力による世界の負担を実証するのに役立つだろうか？ プロジェクトは間もなく開始され、SDGsは研究協力者のための「灯台」として引き続き機能することが期待されています。

B.12 研究をSDGsでマッピングする (INSTITUTE FOR SUSTAINABLE FUTURES, UNIVERSITY OF TECHNOLOGY, SYDNEY)

大学の活動と行動をSDGsにマッピングすることで、大学全体の可能性のあるつながりを見出し、支援を呼び込み、SDGsに関する学際的な研究協力を触媒できます。

2016年にthe Institute for Sustainable Futures at UTS (ISF-UTS)は、そこで行われている研究をSDGsフレームワークにマッピングするためのツールを作成しました。マッピングツールとプロセスは、ISF-UTSが、研究活動が現在SDGsに関連しているところを見つけ、アライメントを強化する方法を見出し、そして、見出されたギャップに対処するべきかどうかの決定を支援することを目的としていました。

また、ISF-UTSは、研究ディレクターがSDGsに有意義な方法で関与し、ISF-UTSのなかで正確な理解と同意支援を促す、という共同作業プロセスを開発しました。ISF-UTSは単純なエクセルツールを作り、10人の研究ディレクターが、SDG(ターゲットレベル)と、関連の研究分野の現在進行中または最近のプロジェクトとの間のリンクを見つけたところを示すために使われました。次に、結果を照合し、SDGsに対するISF-UTSにおける関連の深さおよび幅を示すために分析が行われました。

ISF-UTSは、マッピングの結果を使用して成果を上げるための道筋をモニターします。これには、SDGsをフレームワークとして使い、研究への影響と、持続可能な未来への変化を生み出すための貢献について報告することが含まれます。詳細については、www.uts.edu.au/research-and-teaching/our-research/institute-sustainable-futures/our-research/SDGs-mapping-ourをご覧ください。

B.13 西オーストラリアSDGsネットワーク (CURTIN UNIVERSITY SUSTAINABILITY POLICY INSTITUTE)

SDGsのアジェンダは、すべての国、地域社会、利害関係者がより良い世界を実現するために協力的パートナーシップで働くことを求めるものです。2016年2月の設立以来、このネットワークは、構成コミュニティのSDGsに対する理解を深め、セクターをまたぐような統合的な計画のメリットをハイライトし、またビジネス、コミュニティ、政府間のSDGsに関する新たなパートナーシップと行動を構築するよう、市民社会を巻き込んできました。

ネットワークは、2015年12月のワークショップ「Curtin University Sustainability Policy Institute」が主催する「SDGsと西オーストラリアとのつながり」の後に形成されました。このワークショップには、多様なセクターおよび組織の70人以上が参加しました。このネットワークは、Curtin University Sustainability Policy Institute、One World Center、WACOSS、西オーストラリア保全カOUNシル、西オーストラリア地方自治体協会、Oxfam、Murdoch University for Responsible Citizenship and Sustainability、Reconciliation WA、西オーストラリアボランティア、パース大司教区の司法・生態・開発事務所、などの広範なメンバーを集めています。

ネットワークの目的は、西オーストラリアでグローバル開発目標のために市民社会の理解、当事者意識、行動をローカライズして構築することです。ネットワークの目的は、西オーストラリアのコミュニティと個人の共同利益を育むコラボレーションを通じて、目標達成に向けたベースラインとフレームワークを測定する、意味のある方法を見つけることです。2017年には、コミュニティとより深く関わりを深め、SDGsを通じてグループが一緒に働く方法を文書化する作業がさらに進められます。

B.14 SDGsのローカリゼーションをオーストラリアでリードする (SDSN AUSTRALIA/ PACIFIC)

2013年初頭、モナッシュ大学によるSDSNオーストラリア/パシフィックは、SDGsを地方の状況にローカライズし、オーストラリアの利害関係者がSDGsを理解し、準備し、対応するのを支援する最初の取り組みの1つを開始しました。このイニシアチブは、グローバルなSDSNローカリゼーション活動のインスピレーションをもたらしました。

地方の大学と知識機関のネットワークとしてのユニークな立場で、地域のビジネス、政府、市民社会、学界、開発コミュニティ、若者とのパートナーシップを、巻き込み構築することにおいても中心的な役割を果たすことができました。

シニアリーダーと意思決定者、直接関与とアドバイス、プレゼンテーションとパブリックイベント、といった複数のステークホルダーを集めたワークショップを通じて、ネットワークは地域のSDGsに対する認識を高め、地域の関連性と可能性を示し、それを実施する際の異なる分野の役割に関する議論を開始しています。

2016年9月、SDSNオーストラリア/パシフィックは、SDGsの全国的な実施を進めるためにオーストラリア初のハイレベルのマルチステークホルダーフォーラムである「オーストラリアのSDGsサミット」を共同開催するために、ビジネスや市民団体と提携しました。サミットでは、150名の指導者と意思決定者がオーストラリアのすべての部門から集まり、SDGsがもたらす機会と、オーストラリアでの実践方法について、共通の理解を得るために集まりました。ap-unsdsn.org を参照してください。

B.15 大学アワードでのSDGsのインパクトを認識する (WESTERN SYDNEY UNIVERSITY)

大学がSDGsに貢献するためにすでに行っていることを見出し、認識することは、インパクトに関する強い実例になるだけでなく、さらなる行動のための強力な推進力を提供することができます。「西シドニー大学賞」は、西シドニー大学のスタッフと学生の重要な業績を表彰します。この賞は、大学院の研究とスーパーバイズ、プロフェッショナルなサービス、取り組み、持続可能性、リーダーシップの中で実行されている優れた仕事を紹介するプラットフォームです。それらはまた、組織の強さを構築するのに役立ちます。

この賞のカテゴリーの1つは、「優秀な大学の取り組みと持続可能性の賞」です。今年の賞には、個人と団体、スタッフと学生のカテゴリーがあり、既存のチャンネルを通じてSDGsをメインストリームにしプロモートする方法の一例を提供しています。2017年に大学がSDSNイニシアチブに関与した後、SDGsへのスタッフと学生の貢献を認められるようにこの賞の対象が拡大されることが発表されました。推薦状には評価基準が含まれ、応募者は自分の仕事がSDGsとどのように関係するかを説明する必要があります。

過去の受賞者と、賞についての詳細は、次をご覧ください：

www.westernsydney.edu.au/university_awards/awards.

B.16 社会善(social good)サミット (THE UNIVERSITY OF SYDNEY)

2015年に、シドニー大学のビジネススクールが社会善サミットオーストラリアと協力し、ビジネス、非営利団体のみならずオーストラリアの政府と市民社会のSDGsに向けた取り組みをハイライトするサミットを開催しました。ニューヨークの国連で開催される毎年の「社会善サミット」に基づき、オーストラリアのSDGs達成に関与する個人と団体が1日間のサミットに招待されました。サミットの主な目標は、より広範なオーストラリア社会にSDGsへかかわってもらうことと、既に実施されている参考になる例とロールモデルの提供でした。講演者はSDGsフレームワークに従ってグループ化され、特定のSDGに対応して行われているイニシアチブについて話しました。講演者の中には、National Australia Bank、OZ Harvest、Australian Human Rights Commissionerのリーダーたちが参加していました。社会善サミットの詳細については、www.socialgoodsummit.com.au をご覧ください。2015年のサミットに関する短いビデオは www.youtube.com/watch?v=6fTJlwbPNCY&feature=youtu.be でご覧いただけます。

B.17 大学SDGsリーダーシップワークショップ(JAMES COOK UNIVERSITY)

SDGsは、大学活動のすべての分野に関連性があります。大学のリーダーシップからの支援は、SDGへの大学のコミットメントを確実にするために不可欠です。

2017年4月、ジェームズ・クック大学(JCU)はSDGsリーダーシップ・ワークショップを開催しました。オーストラリアで初めて「SDGsへの大学の取り組み」(4.4参照)に署名した大学として、同大学はこの約束をどのように実現するのが最善かを模索してきました。ワークショップは、SDGsへのJCUのコミットメントの実現を「戦略的意図」と「熱帯地方の状況(State of Tropics)」プロジェクトと位置づけ、マッピングするために、大学全体のリーダーシップを結集しました。ワークショップでは、研究、学習、教育、運営、ガバナンス、そして文化を通しての機会を見出すために、大学全体からリーダーを集めました。

次の結果がワークショップから浮かび上がりました：

- ・シニア・ミドル・マネジメントを含む大学のリーダーシップ層で、JCUのSDGsへの取り組みについて意識の高まり
- ・SDGsを大学全体の計画および運用の枠組みとしてどのように使用できるかの理解
- ・SDGsを業務、研究、カリキュラムおよびステークホルダーエンゲージメントの活動と調和させる機会のスコープ

このワークショップモデルを学生団体と全スタッフに拡大することで、大学全体のSDGsに対する関心を育てることも計画されています。ワークショップから出されたテーマが大学の戦略計画プロセスに盛り込まれているため、成果はすでに大学のプランニング作業の中で明確にされています。

JCUが持続可能性の文化をどのように作り上げているかについては、www.jcu.edu.au/tropeco を参照してください。

GETTING STARTED WITH THE SDGs IN UNIVERSITIES

